

科目名	児童学概論		
担当教員名	渡邊 孝枝、金勝 裕子、上垣内 伸子、長田 瑞恵 他		
ナンバリング	KAa101		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、卒業必修科目である。入学後初めに学習する基礎科目であり、これから4年間の幼児教育学科での学習の領域を概観するような内容となっている。学科専任教員各自の専門領域や研究内容を知るといった性格も持っている。

科目の概要

児童学への入口となるオムニバス形式の科目である。本年度は、『あそびについて考える』というテーマのもとに、本学幼児教育学科専任教員が各自の専門的観点から「子どもとあそび」について講義し、学びの対象となる子どもへの興味関心を喚起する。

学修目標（=到達目標）

- ・これまで持ってきたであろう一般的な「子ども」のイメージを一度突き崩して、多面的に子どもについて探究する。
- ・「子ども」という窓から、世の中の枠組み、身の回りの人間関係・出来事などについて見つめ直す。
- ・各講義担当者の講義内容について各自が作成した「講義ノート」が主要テキストとなるので、授業の内容を把握し、ノートに記載する。
- ・授業への参加、課題への取り組み、講義ノートの作成などを通して、大学で講義を受けるための基本的なスキルを身につける。

内容

1	渡邊；科目の目的や趣旨、内容、各教員の専門等の説明
2	金勝；乳幼児を取り巻く「音環境」について
3	横井；遊びと空間 - 子ども時代の遊びを思い出そう -
4	山田；子どもになって鬼ごっこのおもしろさを見つけよう
5	潮谷；子どもの遊びとソーシャルワーク
6	宮野；遊びと造形表現
7	藪崎；歌を伴った遊びについて考え実践してみよう
8	長田；子どもの育ちと心
9	鈴木康；子どもの身体活動と社会
10	鈴木晴；絵本の世界から遊びへ
11	向井；子どもにとっての「初めての」遊びとは
12	野口；“ 夢中になる、没頭する ” 遊び
13	加藤；積極的に遊べる環境づくり
14	上垣内；言葉で遊ぼう
15	まとめ

評価

授業への参加度（50点）、試験（50点）とし、総合評価60点以上を合格する。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】日常生活の中で子どもの姿を観察する。

【事後学修】授業ノートの整理を行い、読み返す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各担当教員が講義の中で、参考図書の紹介や資料の配布を行う予定です。

科目名	児童学演習		
担当教員名	長田 瑞恵、上垣内 伸子、横井 紘子、大宮 明子 他		
ナンバリング	KAa102		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は本学科の卒業必修科目となっている。実習を通じて、乳幼児とかかわりを持ちながら学習を進めていく。実習という体験学習を通して、自ら関わりつつ子どもから学ぶ姿勢を確立する。特に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ一つの機会となる。

科目の概要

最初の実習となる1年次の児童学演習では、本学が立地する新座において、子どもが育つ様々な現場に実際に出かけ、現代社会の中での保育・育児および子どもの生活の実態を知る。実習の事前指導・事後指導において、保育に関する現代的課題について調査研究活動を行い、1年次履修の他の専門科目を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。「地域に貢献する」学生を育てることをねらい、地域についても学修する。

学修目標

1. 実習を通して、保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。
3. 実習の事前指導・事後指導を通して、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。
4. 1年次履修の専門科目との関連を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認し、地域社会について主体的に学ぶ。

内容

新座市内および周辺地域の、さまざまな保育および子ども支援サービスの場の見学実習を行う。具体的には、就学前の子どもの中での保育の場である幼稚園および保育所や、保育と育児に関連する場の見学実習を行う。

学校教育としての保育

- ・幼稚園（本学附属幼稚園）

児童福祉施設での保育

- ・保育所（新座市立保育所）

児童厚生施設等での健全育成事業

- ・児童センター
- ・子育てサロン（公民館等）

その他

実習の前後には、事前学習や事後の報告発表や話し合いの時間をもち、子どもと子育てを取り巻く社会状況の理解および子ども理解を深める一助とする。さらに、実習の事前・事後学習を通して、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を取得する。

評価

実習のレポートや発表（50%）、実習および事前事後学習への参加状況（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業配布資料の整理及び管理を行う。関連する授業を振り返り、学びを確認しておく。

【事後学修】実習記録などの整理及び管理を行う。実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

最新保育資料集(2016) ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 厚生労働省 文部科学省 フレーベル館

科目名	幼児教育基礎実習		
担当教員名	上垣内 伸子、横井 紘子、山田 陽子		
ナンバリング	KAa204		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園において参加観察実習を行う。幼児教育学科の必修科目である。

本学附属幼稚園を含む15園程度の幼稚園に分かれ、隔週で週1回の実習を行う。実習の翌週は、実習レポートを基に、「幼児教育基礎演習」において話し合いをもち、次回の実習へとつなげていく。春休みには4日間連続の実習を行い、3年次から始まる幼稚園教諭および保育士資格取得のための実習へのスムーズな移行を目指し、保育者としての視点獲得と行動を実習の中で試みる。

保育の中で幼児と実際に関わり、一人一人の子ども心理、人間関係、状況に応じてその場で考え行動していくことを通して、子ども理解および保育者を目指す存在としての自己理解を深めていくことを目的とする。

内容

1. 隔週での幼稚園参加観察実習

子どもの主体的活動を中心とした保育を展開し、本学科教員と保育実践の共同研究等を行ってきている幼稚園10 数園に数人ずつに分かれて配属され、隔週で週1回、登園前から降園後まで1日の実習を3日行う。

実習翌日までにレポートを作成して提出し、翌週には各自のレポートを基に行う演習に参加する。

2. 幼稚園連続実習

後期の授業終了後に4日間の連続実習を行う。これまで実習していたクラスで4日間連続の実習を行い、子どもの遊びや友だち関係、内面を生活の連続性の中で理解していくことを目指す。

実習後にレポートを作成して提出し、総括の話し合いをもつ。

実習につき、15回の授業ではなく、集中となる。

第4週頃：1日：幼稚園にて学外オリエンテーション / 保育見学・保育参加

第5～11週頃：3日：幼稚園にて隔週の実習（登園から降園まで1日）

春休み中：4日：幼稚園にて4日間連続の実習

合計約60時間の幼稚園での実習となる。

評価

1. すべての実習への参加と、実習日誌の期限内提出を、単位取得の必要条件とする。

2. 実習参加状況、日誌の提出状況、実習態度・意欲を6:2:2の比率で評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】幼児教育基礎演習における事前・事後指導の内容にもとづき、保育者としてふさわしいあり方を考え、実習にむけてあらゆる準備を十分に行うとともに、体調管理に努めること。

【事後学修】実習後に定められた形式で確実にレポートを提出すること。実習後に自らの保育を振り返り、幼児理解を深めると同時に、保育者としての自己のあり方について考えること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館

科目名	幼児教育基礎演習		
担当教員名	上垣内 伸子、横井 紘子、山田 陽子		
ナンバリング	KAa205		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園での参加観察実習を行う「幼児教育基礎実習」の事前事後指導という位置づけで、実習事前事後指導と、実習の翌週に、20人規模での話し合いの演習を行う。幼児教育学科の必修科目である。

自らの保育実践をレポートにし、省察する中で、自分自身の関わりのあり方や子どもの内的世界に対する理解を深め、子ども理解と自らの保育行為とのつながりの実際を追体験し確認していくための授業である。

自分たちの保育記録を基に、少人数でじっくり話し合うことを通して、それぞれが保育における自己課題を見だし、互いに啓発しあい支え合いながら、保育者としての資質をのばしていくことを目指す。

内容

1. オリエンテーション / 事前指導

実習の目的・内容等についての学内での事前指導および、実習園での園長・主任・担任による実習のオリエンテーションを受ける。

2. 隔週での幼稚園参加観察実習後の話し合い

実習の翌週は、各自の保育記録を基に、約20人のグループに分かれて、自分たちの保育実践の中からテーマをあげて話し合う。

確実な保育記録レポート提出と、活発な話し合いへの参加が望まれる。

3. 幼稚園連続実習の事前事後指導

隔週での幼稚園実習で学んだことを確認し、新たな自己課題を設定し、連続実習に向けての準備を行う。

実習後は、各自の保育記録を基に、4日間の中での自分の保育者としての成長を確認し、新たに見いだした保育課題などについての話し合いを行い、実習を総括する。

評価

授業への参加状況、話し合いへの参加状況、日誌の内容を6:2:2の比率で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】1年次に配布されている実習の手引きを読んでおくこと。また、話し合いや事後指導前には、実習後の自分のレポートをよく読み、自己課題を意識して授業に臨むこと。

【事後学修】実習の基本的事項に関するプリントに繰り返し目を通し、内容を把握・理解すること。話し合いの内容や仲間の実習レポートから、自らの保育実践を省察し、次の実習へと活かすこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

科目名	幼児教育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目として位置付けられている。幼児教育・保育全体を示す概論であり、これから学習していく学科専門科目すべての基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・ 幼児教育・保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

内容

1	保育とは何か
2	保育の歴史
3	乳幼児の生活と発達
4	子どもと遊び
5	保育所保育指針・幼稚園教育要領の制度的位置づけと成立および変遷
6	保育の目的と目標
7	保育のねらいと内容
8	保育の環境
9	保育方法の原理
10	保育活動と保育形態
11	保育指導計画と保育・教育課程
12	保育者の役割と保育実践
13	家庭・地域との連携
14	世界の保育・幼児教育
15	保育の今日的課題と未来への保育ビジョン

評価

授業への参加態度や発言 (30%)、学期内の小レポート・小テスト (30%)、学期末試験 (40%) により評価を行う。

総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】前週に指示したテキストの指定箇所を読んでおく。普段から、子どもと保育に関する新聞などメディアからの発信にアンテナを立て、目を通しておくこと。

【事後学修】授業内に配布した資料やテキストをもとに、その週の学習内容を確認しておくこと。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関口はつ江他『保育原理 - 実践的幼児教育論 - 』建帛社

以下の4冊は、4年までの他の保育専門科目でも使用する。

文部科学省『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 内閣府・文部科学省・厚生労働省

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 3冊すべてフレーベル館

最新保育資料集2016 ミネルヴァ書房 他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

科目名	幼児教育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAb107		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目として位置付けられている。幼児教育・保育全体を示す概論であり、これから学習していく学科専門科目すべての基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・ 幼児教育・保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

内容

1	保育とは何か
2	保育の歴史
3	乳幼児の生活と発達
4	子どもと遊び
5	保育所保育指針・幼稚園教育要領の制度的位置づけと成立および変遷
6	保育の目的と目標
7	保育のねらいと内容
8	保育の環境
9	保育方法の原理
10	保育活動と保育形態
11	保育指導計画と保育・教育課程
12	保育者の役割と保育実践
13	家庭・地域との連携
14	世界の保育・幼児教育
15	保育の今日的課題と未来への保育ビジョン

評価

授業への参加態度や発言（30%）、学期内の小レポート・小テスト（30%）、学期末試験（40%）により評価を行う。

総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】前週に指示したテキストの指定箇所を読んでおく。普段から、子どもと保育に関する新聞などメディアからの発信にアンテナを立て、目を通しておくこと。

【事後学修】授業内に配布した資料やテキストをもとに、その週の学習内容を確認しておくこと。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関口はつ江他『保育原理 - 実践的幼児教育論 - 』建帛社

以下の4冊は、4年までの他の保育専門科目でも使用する。

文部科学省『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 内閣府・文部科学省・厚生労働省

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 3冊すべてフレーベル館

最新保育資料集2016 ミネルヴァ書房

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

科目名	教育学		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KAb108		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に掲げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義及び、保育士資格の「保育の本質・目的に関する科目」の「教育原理」を含む講義を行います。これから4年間にわたって教職科目や保育士科目を受講していくもっとも最初の時期に「教育・保育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。

先生になるために最小限必要となる教育の歴史や理論に関する基礎を勉強することになります。講義では「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目に従って取り上げます。

教育の基礎理論に関して理解を深めること、仲間とともに課題を設定し、討論し合いながら研究を深めること、自己の見解を整理し、深め、発表することができること、をめあてとします。

内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます (順不同)。

テキストの構成とほぼ重なっています。

- 第1回：「人間とは何か」という問いから考える；教育は人間社会に固有な営み；生物としてのヒトの特性
- 第2回：ルソーの『エミール』と「子どもの発見」；進化する生物、進歩する人間；「学ぶ」能力と「教える」能力
- 第3回：「学ぶ」ことと、新しい能力を手に入れる喜び；発達developmentと教育education；発達への助成的介入としての教育
- 第4回：個性の形成と遺伝、環境；教育と教育にあらざるもの；「こやらい」の世界
- 第5回：共同体の人間形成システムと通過儀礼；教育することへの自覚；教育という言葉の2つの用法
- 第6回：「学校」とはどういう場か；なぜ「学校」が必要になったか；中世の学校
- 第7回：近代への準備；近世の学校；「近代公教育」とは；なぜすべての子どもが学校に通うようになったのか
- 第8回：市民革命と近代公教育；実際に成立してきた近代公教育制度の性格；学校の成立；古代律令制度国家の学校
- 第9回：中世の学校；宗教との結合；近代学校への準備；幕末維新期の教育機関；日本における近代公教育制度の成立とその性格
- 第10回：教育政策をめぐる路線の対立；教育勅語体制の成立；戦前学校体制の整備・確立
- 第11回：映像で学ぶ教育学「風の橋」(中国雲南省の少数民族ヤオ族における人間形成)
- 第12回：映像で学ぶ教育学「カンジとパンパニーシャ」(スー・ザベージ・ランボー博士の研究)
- 第13回：映像で学ぶ教育学「我が谷は緑なりき」(イギリス産業革命期の少年労働)
- 第14回：映像で学ぶ教育学「芽を吹く子ども」(斎藤喜博と島小の学校づくり)
- 第15回：まとめ

評価

班ごとの発表(20点)、各回毎の学修票作成(80点)を総合して、60点以上を合格点とし、単位を認定します。

授業外学習

【事前予習】テキストを読み、概要を把握し、疑問点を整理します。その上で講義に臨みます。

【事後学修】発表班の発表内容や各班討論の内容を整理し、自分の考えをまとめ、ふり返ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一他著『やさしい教育原理（新版補訂版）』有斐閣アルマ

【推薦書】ルソー『エミール（改版）上』岩波文庫、シング『狼に育てられた子』福村出版

【参考図書】留岡清男『教育農場50年』岩波書店、谷昌恒『ひとむれ』評論社

科目名	保育制度・保育政策論		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング	KAb209		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 幼稚園教諭免許状取得に係る必修（教育の基礎理論に関する）科目であるとともに、保育士資格取得に必要な選択（保育の本質・目的に関する）科目でもある。

本科目の内容は、幼稚園と保育所に関する制度と政策について、歴史的な変遷とその時々々の社会問題との関係を比較し、探究する。よって、幼児の養護と教育に関する具体的な内容と方法等に関する学習並びに保育・幼児教育に携わる上で必要な知識や思考力等を身に付けることを目的とする。

科目の概要 保育（養護と教育）制度の成り立ちや歴史的変遷を概観し、近年における保育制度（仕組み）・政策（方針，方法）の背景にある社会的要請と保育観を分析・解釈する。よって、知識基盤社会と称される今日、転換期にある保育所・幼稚園政策に関する基本的課題について学習する。また、近年の保育制度・政策の現状と課題についての知見を深め、子供のwell-being（幸福・健康＝よりよく生きる）を具現化する保育の内容・方法等について分析・解釈する。

学修目標（＝到達目標）

1 保育制度の仕組みとその変遷等を分析・解釈し、今後において期待される保育制度・保育政策について説明できる。2 少子化社会が進む背景を推論し、期待される保育制度・保育政策の内容・方法等について説明できる。3 知識基盤社会における保育（養護・教育）の在り方について、近年の教育施策（就学前教育の課題）や日々の保育と関連付けて説明できる。

内容

2回目からの事前課題を1回目の授業時に提示する。例えば2回目の学習内容に係る事前課題として【子供のwell-being（よりよく生きる）を具現化するにはどうするか】について、自分の考えを小レポート形式で用意する。授業の中で、集団討議等の資料として用い、学習を深める。授業終了時に、それらの小レポートを提出する。

1	「制度」「政策」の概念と保育（養護・教育）に関する近年の施策を概観する。
2	子どものwell-being(よりよく生きる)ことの現状と課題について考える。
3	人が生きていく上で大切にしたいことを分かり合える方法を考える
4	少子化社会が進展する背景を考察し、保育制度・保育政策の在り方を探索する。
5	幼稚園・保育園の誕生の歴史をたどり、教育観や保育観を探索する。
6	諸外国の保育制度・保育施策を比較し、日本の制度や施策のよさと課題を考察する。
7	女性がさらに活躍する社会の実現と脱少子化を両立させるための方途を考察する。
8	最近の教育施策と就学前教育の制度と課題を考察する。
9	「幼保一元化」をめぐる議論や制度構築に係る問題の解決策を考える。
10	最近の保育制度改革の動向と課題について分析・解釈解決への参画方法を考察する。
11	「子ども・子育て支援新制度」の背景と目的を読み解き、今後の保育の在り方を考察する。
12	「Starting strong」という理念と保育制度と政策形成の在り方を提案する。
13	関係法令の基本理念と施策や保育者の資質・能力を向上に関する取組みを概観する。
14	保育の今後は、（社会発展の投資）（生命・生活・人生重視）かについて分析、解釈する。
15	就学前教育と経済的効率性とを関連付けた社会政策について分析、解釈する。

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業毎に次時の課題と資料等を提示する。これらの資料を読み解き，次時の授業内容に関する情報を整理したり，考察したりして，授業の準備を行う。

【事後学修】事前学習で取りまとめた事項や内容と，授業で学んだことを比較し，本科目の学修目標に到達できるように，考えなどを整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキスト（授業毎にレジюмеと学習資料）を配布する。幼稚園教育要領（平成20年3月），保育所保育指針（平成20年4月）

【推薦書】

【参考図書】民秋 言，他著『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の成立 第2版 萌文書林出版

科目名	保育制度・保育政策論		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング	KAb209		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 幼稚園教諭免許状取得に係る必修（教育の基礎理論に関する）科目であるとともに、保育士資格取得に必要な選択（保育の本質・目的に関する）科目でもある。

本科目の内容は、幼稚園と保育所に関する制度と政策について、歴史的な変遷とその時々々の社会問題との関係を比較し、探究する。よって、幼児の養護と教育に関する具体的な内容と方法等に関する学習並びに保育・幼児教育に携わる上で必要な知識や思考力等を身に付けることを目的とする。

科目の概要 保育（養護と教育）制度の成り立ちや歴史的変遷を概観し、近年における保育制度（仕組み）・政策（方針，方法）の背景にある社会的要請と保育観を分析・解釈する。よって、知識基盤社会と称される今日、転換期にある保育所・幼稚園政策に関する基本的課題について学習する。また、近年の保育制度・政策の現状と課題についての知見を深め、子供のwell-being（幸福・健康＝よりよく生きる）を具現化する保育の内容・方法等について分析・解釈する。

学修目標（＝到達目標） 1, 保育制度の仕組みとその変遷等を分析・解釈し、今後において期待される保育制度・保育政策について説明できる。2, 少子化社会が進む背景を推論し、期待される保育制度・保育政策の内容・方法等について説明できる。3, 知識基盤社会における保育（養護・教育）の在り方について、近年の教育施策（就学前教育の課題）や日頃の保育と関連付けて説明できる。

内容

2回目からの事前課題を1回目の授業時に提示する。例えば、2回目の学習内容に係る事前課題として、【こどものwell-being（よりよく生きる）を具現化するにはどうするか】について、自分の考えを小レポート形式で用意する。授業の中で、集団討議等の資料として用い、学習を深める。授業終了時にそれらの小レポートを提出する。

1	「制度」「政策」の概念と保育（養護・教育）に関する近年の施策を概観する。
2	子どものwell-being（よりよく生きる）ことの現状と課題について考える。
3	人が生きていく上で大切にしたいことを分かり合える方法を考える。
4	少子化社会が進展する背景を考察し、保育制度・保育政策の在り方を探索する。
5	幼稚園・保育園の誕生の歴史をたどり、教育観や保育観を探索する。
6	諸外国の保育制度・保育施策を比較し、日本の制度や施策のよさと課題を考察する。
7	女性がさらに活躍する社会の実現と脱少子化を両立させるための方途を考察する。
8	最近の教育施策と就学前教育の制度と課題を考察する。
9	「幼保一元化」をめぐる議論や制度構築に係る問題の解決策を考える。
10	最近の保育制度改革の動向と課題について分析・解釈解決への参画方法を考察する。
11	「子ども・子育て支援新制度」の背景と目的を読み解き、今後の保育の在り方を考察する。
12	「Starting strong」という理念と保育制度と政策形成の在り方を提案する。
13	関係法令の基本理念と施策や保育者の資質・能力を向上に関する取組みを概観する。
14	保育の今後は、（社会発展の投資）（生命・生活・人生重視）かについて分析，解釈する。
15	就学前教育と経済的効率性とを関連付けた社会政策について分析，解釈する。

評価

関心・意欲（事前課題，小集団討議，小レポート）30%， 知識・理解（筆記試験）40%， 技能・表現力（課題提出物の内容）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業毎に次時の課題と資料等を提示する。これらの資料を読み解き，次時の授業内容に関する情報を整理したり，考察したりして，授業の準備を行う。

【事後学修】事前学習で取りまとめた事項や内容と，授業で学んだことを比較し，本科目の学修目標に到達できるように，考えなどを整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキスト（授業毎にレジュメと学習資料）を配布する。

・幼稚園教育要領（平成20年3月），保育所保育指針（平成20年4月）

【推薦書】

【参考図書】民秋 言，他著 『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の成立』 第2版 萌文書林出版

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAb210		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は保育所・幼稚園および療育施設で障害のない子どもと障害のある子どもの保育・療育の仕事を担います。障害児保育が目指すのは、乳幼児期の子どもが、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもにも集団の場や家庭で楽しい生活を送るための保育を創り出すことです。そのために保育者は、障害も含めてのありのままのその子どもに出会い、受容し、理解し、信頼関係を作り、障害の内容や発達し続けるその子どものニーズに応じた援助ができる保育者になるための基礎を培います。基本は障害のない子どもの保育と同じです。

科目の概要

障害のある子どもの今を大切にしながら、これからの発達に必要な援助を理解し知識を身に付けるために、障害児保育の歴史を理解し、障害種別毎の乳幼児期の障害の理解と保育の配慮や方法についての知識を持ち、障害のあるなしに関わらず子ども同士が育ち合うための保育の方法や援助のあり方、家族との協力関係等を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解すること
- ・障害の種別や程度や年齢に関係なく、子ども一人一人が集団の中で楽しく自分らしく伸び伸びと過ごすための遊びや生活を子どもと一緒に創り出して行こうとする態度をもつこと

内容

1	子どもはどういう存在かを捉えた上で障害のある子どもの保育の目的を理解する
2	障害のある子どもの保育・療育についての歴史と現状を理解する
3	障害のある子どもの保育・療育を担う施設のそれぞれの特徴を比較し各施設の目指すものを掴む
4	子どもの行動をその子の心の表現として捉えて共感的に理解して心に応答しようとする
5	障害のある子どもが見出している遊びのおもしろさに気づいて一緒に楽しむための方法を知る
6	障害のある子どもが仲間と共にあることとそのことによって培われる力について考える
7	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（1）視覚障害・聴覚障害
8	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（2）運動障害
9	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（3）知的障害
10	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
11	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
12	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
13	インクルーシブ保育について理解する
14	インクルーシブ保育について考える
15	まとめ

評価

授業への参加度10% 毎回のレポート30% 学期末のレポート60%とし、総合評価60点以上を合格とします。合格

点に満たなかった場合は再試験を実施します。

授業外学習

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分を熟読し、分からない語句を調べる。

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAb210		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は保育所・幼稚園および療育施設で障害のない子どもと障害のある子どもの保育・療育の仕事を担います。障害児保育が目指すのは、乳幼児期の子どもが、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもにも集団の場や家庭で楽しい生活を送るための保育を創り出すことです。そのために保育者は、障害も含めてのありのままのその子どもに出会い、受容し、理解し、信頼関係を作り、障害の内容や発達し続けるその子どものニーズに応じた援助ができる保育者になるための基礎を培います。基本は障害のない子どもの保育と同じです。

科目の概要

障害のある子どもの今を大切にしながら、これからの発達に必要な援助を理解し知識を身に付けるために、障害児保育の歴史を理解し、障害種別毎の乳幼児期の障害の理解と保育の配慮や方法についての知識を持ち、障害のあるなしに関わらず子ども同士が育ち合うための保育の方法や援助のあり方、家族との協力関係等を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解すること
- ・障害の種別や程度や年齢に関係なく、子ども一人一人が集団の中で楽しく自分らしく伸び伸びと過ごすための遊びや生活を子どもと一緒に創り出して行こうとする態度をもつこと

内容

1	子どもはどのような存在かを捉えた上で障害のある子どもの保育の目的を理解する
2	障害のある子どもの保育・療育についての歴史と現状を理解する
3	障害のある子どもの保育・療育を担う施設のそれぞれの特徴を比較し各施設の目指すものを掴む
4	子どもの行動をその子の心の表現として捉えて共感的に理解して心に応答しようとする
5	障害のある子どもが見出している遊びのおもしろさに気づいて一緒に楽しむための方法を知る
6	障害のある子どもが仲間と共にあることとそのことによって培われる力について考える
7	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（1）視覚障害・聴覚障害
8	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（2）運動障害
9	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（3）知的障害
10	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
11	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
12	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
13	インクルーシブ保育について理解する
14	インクルーシブ保育について考える
15	まとめ

評価

授業への参加度10% 毎回のレポート30% 学期末のレポート60%とし、総合評価60点以上を合格とします。合格

点に満たなかった場合は再試験を実施します。

授業外学習

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分を熟読し、分からない語句を調べる。

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAb210		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は保育所・幼稚園および療育施設で障害のない子どもと障害のある子どもの保育・療育の仕事を担います。障害児保育が目指すのは、乳幼児期の子どもが、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもにも集団の場や家庭で楽しい生活を送るための保育を創り出すことです。そのために保育者は、障害も含めてのありのままのその子どもに出会い、受容し、理解し、信頼関係を作り、障害の内容や発達し続けるその子どものニーズに応じた援助ができる保育者になるための基礎を培います。基本は障害のない子どもの保育と同じです。

科目の概要

障害のある子どもの今を大切にしながら、これからの発達に必要な援助を理解し知識を身に付けるために、障害児保育の歴史を理解し、障害種別毎の乳幼児期の障害の理解と保育の配慮や方法についての知識を持ち、障害のあるなしに関わらず子ども同士が育ち合うための保育の方法や援助のあり方、家族との協力関係等を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解すること
- ・障害の種別や程度や年齢に関係なく、子ども一人一人が集団の中で楽しく自分らしく伸び伸びと過ごすための遊びや生活を子どもと一緒に創り出して行こうとする態度をもつこと

内容

1	子どもはどういう存在かを捉えた上で障害のある子どもの保育の目的を理解する
2	障害のある子どもの保育・療育についての歴史と現状を理解する
3	障害のある子どもの保育・療育を担う施設のそれぞれの特徴を比較し各施設の目指すものを掴む
4	子どもの行動をその子の心の表現として捉えて共感的に理解して心に応答しようとする
5	障害のある子どもが見出している遊びのおもしろさに気づいて一緒に楽しむための方法を知る
6	障害のある子どもが仲間と共にあることとそのことによって培われる力について考える
7	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（1）視覚障害・聴覚障害
8	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（2）運動障害
9	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（3）知的障害
10	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
11	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
12	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
13	インクルーシブ保育について理解する
14	インクルーシブ保育について考える
15	まとめ

評価

授業への参加度10% 毎回のレポート30% 学期末のレポート60%とし、総合評価60点以上を合格とします。合格

点に満たなかった場合は再試験を実施します。

授業外学習

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分を熟読し、分からない語句を調べる。

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAb210		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は保育所・幼稚園および療育施設で障害のない子どもと障害のある子どもの保育・療育の仕事を担います。障害児保育が目指すのは、乳幼児期の子どもが、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもにも集団の場や家庭で楽しい生活を送るための保育を創り出すことです。そのために保育者は、障害も含めてのありのままのその子どもに出会い、受容し、理解し、信頼関係を作り、障害の内容や発達し続けるその子どものニーズに応じた援助ができる保育者になるための基礎を培います。基本は障害のない子どもの保育と同じです。

科目の概要

障害のある子どもの今を大切にしながら、これからの発達に必要な援助を理解し知識を身に付けるために、障害児保育の歴史を理解し、障害種別毎の乳幼児期の障害の理解と保育の配慮や方法についての知識を持ち、障害のあるなしに関わらず子ども同士が育ち合うための保育の方法や援助のあり方、家族との協力関係等を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解すること
- ・障害の種別や程度や年齢に関係なく、子ども一人一人が集団の中で楽しく自分らしく伸び伸びと過ごすための遊びや生活を子どもと一緒に創り出して行こうとする態度をもつこと

内容

1	子どもはどのような存在かを捉えた上で障害のある子どもの保育の目的を理解する
2	障害のある子どもの保育・療育についての歴史と現状を理解する
3	障害のある子どもの保育・療育を担う施設のそれぞれの特徴を比較し各施設の目指すものを掴む
4	子どもの行動をその子の心の表現として捉えて共感的に理解して心に応答しようとする
5	障害のある子どもが見出している遊びのおもしろさに気づいて一緒に楽しむための方法を知る
6	障害のある子どもが仲間と共にあることとそのことによって培われる力について考える
7	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（1）視覚障害・聴覚障害
8	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（2）運動障害
9	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（3）知的障害
10	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
11	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
12	子どもがもっている障害とその子どもへの特別な配慮を知る（4）発達障害
13	インクルーシブ保育について理解する
14	インクルーシブ保育について考える
15	まとめ

評価

授業への参加度10% 毎回のレポート30% 学期末のレポート60%とし、総合評価60点以上を合格とします。合格

点に満たなかった場合は再試験を実施します。

授業外学習

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分を熟読し、分からない語句を調べる。

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KAb213		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園教諭を目指す学生のための教職教養科目 本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

「教育の目的の応じた教育方法の違いがわかる」「幼稚園教育要領における学習のねらいがわかる」「授業設計の手法がわかる」

内容

1	1. 教育の目的と方法 (ガイダンス)
2	2. 教育方法の基礎理論
3	3. 学習理論の展開
4	4. 問題解決学習の方法
5	5. 学習形態と学習指導
6	6. 教育課程の編成
7	7. 授業設計の手順と教材研究
8	8. 演習課題
9	9. 目標分析と評価問題の作成
10	10. 学習評価の理論
11	11. 「関心・意欲・態度」の評価
12	12. 総合的な活動の評価
13	13. 現行学習指導要領の特徴
14	14. 総合課題
15	15. まとめ

評価

1 授業ごとの課題提出 (30%)

2 最終試験の達成度 (70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る (2時間)

【事後学修】総合課題の見直し (1時間)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『自ら学び考える教職教養』松田・星野・狩野・津吹 (学文社)

【教科書】『学習者のとものり組む授業改善』松田・星野・波多野（学文社）

科目名	教育方法		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング	KAb213		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許取得のための必修科目であり、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。

科目の概要

子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係について、歴史的見解から学ぶとともに、教材開発や教育機器の活用等、指導方法の工夫について具体的な事例に基づいた協議も取り入れながらより幅広い学修を目指す。

学修目標 (= 到達目標)

- ・子ども観と教育方法の関係が分かる。
- ・幼児期の特性を踏まえた保育を構想する手法が分かる。
- ・教材、教具、教育機器などに関する実践的な知識と開発の方法が分かる。

内容

1	教育の目的と方法
2	幼稚園教育要領の特徴と教育方法
3	教育方法の歴史的変遷
4	わが国における教育方法の歴史的変遷
5	教育課程の編成と指導計画の作成
6	指導方法の工夫 (1) 保育形態と教師の援助
7	指導方法の工夫 (2) 幼児の主体的な活動と環境の構成
8	指導方法の工夫 (3) 遊びの充実と教材開発
9	教育評価の理論
10	幼児の学びと評価の実際
11	教育機器の活用と情報化への対応
12	学級経営とチーム保育、協力体制
13	教育課題への対応 (1) 幼小の連携・交流の方法
14	教育課題への対応 (2) 多文化社会への対応
15	まとめ

評価

授業への取り組み30%、課題提出30%、筆記試験の達成度40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 事前に提示する課題に関する資料検索、協議の準備(1時間)

【事後学修】 授業のまとめ、課題に関するレポートの作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 プリント配布

【推薦書】【参考図書】 授業の中で、適宜紹介する。

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング	KAb214		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格に必要とされる専門科目です。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めます。

科目の概要

この科目は3歳未満児を保育の対象とする科目です。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響します。乳児保育は最も重要な時期を対象とすることです。乳児保育は保育所保育指針解説書において「生命の保持」「情緒の絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となりました。授業ではこの点を学び、乳児保育に必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもに関わることができるような授業内容です。

学修目標（=到達目標）

子どものさまざまな生育環境を踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方やとらえ方、知識、保育者の在り方を身につけていくことを目標とします。

内容	
1	乳児保育 オリエンテーション
2	乳児保育の保育ニーズ
3	乳児保育の考え方
4	乳児保育の意識（現代の社会環境と乳児保育の必要性）
5	乳児の発達と保育 0歳児の発達と保育の配慮
6	乳児の発達と保育 1歳児の発達と保育の配慮
7	乳児の発達と保育 2歳児の発達と保育の配慮
8	乳児期の生活リズム（睡眠・摂食・排泄・活動）とデイリープログラムにおける配慮
9	乳児期の生活リズム（睡眠・摂食・排泄・活動）とデイリープログラムにおける配慮
10	乳児保育の環境 人的環境
11	乳児保育の環境 物的環境
12	乳児期の安全管理（事故・健康管理）
13	育ちが気になる事例
14	総合学習
15	まとめ

評価

項目ごとの小レポート及び試験によって行う。授業の参加態度及びレポート（30%）テスト（70%）で評価を行い、合格点に満たないものは、再試験となる。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習内容の復讐をしておくこと

【事後学修】学習内容の確認をしておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】民秋 言「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立」萌文書林
もう1冊は初回の授業で紹介する

【参考図書】保育所保育指針解説書

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング	KAb214		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格に必要とされる専門科目です。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めます。

科目の概要

この科目は3歳未満児を保育の対象とする科目です。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響します。乳児保育は最も重要な時期を対象とすることです。乳児保育は保育所保育指針解説書において「生命の保持」「情緒の絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となりました。授業ではこの点を学び、乳児保育に必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもに関わることができるような授業内容です。

学修目標（=到達目標）

子どものさまざまな生育環境を踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方やとらえ方、知識、保育者の在り方を身につけていくことを目標とします

内容	
1	乳児保育 オリエンテーション
2	乳児保育の保育ニーズ
3	乳児保育の考え方
4	乳児保育の意識（現代の社会環境と乳児保育の必要性）
5	乳児の発達と保育 0歳児の発達と保育の配慮
6	乳児の発達と保育 1歳児の発達と保育の配慮
7	乳児の発達と保育 2歳児の発達と保育の配慮
8	乳児期の生活リズム（睡眠・摂食・排泄・活動）とデイリープログラムにおける配慮
9	乳児期の生活リズム（睡眠・摂食・排泄・活動）とデイリープログラムにおける配慮
10	乳児保育の環境 人的環境
11	乳児保育の環境 物的環境
12	乳児期の安全管理（事故・健康管理）
13	育ちが気になる事例
14	総合学習
15	まとめ

評価

評価は項目ごとの小レポート及び試験によって行う。授業の参加態度及びレポート（30%）テスト（70%）で評価を行い、合格点に満たないものは、再試験となる。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習内容を復習しておくこと

【事後学修】学習内容を確認しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】民秋 言「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立」萌文書林
もう一冊は、初回の授業で紹介する

【参考図書】保育所保育指針解説書

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング	KAb214		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格に必要とされる専門科目です。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めます。

科目の概要

この科目は3歳未満児を保育の対象とする科目です。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響します。乳児保育は最も重要な時期を対象とすることです。乳児保育は保育所保育指針解説書において「生命の保持」「情緒の絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となりました。授業ではこの点を学び、乳児保育に必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもに関わることができるような授業内容です。

学修目標（=到達目標）

子どものさまざまな生育環境を踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方やとらえ方、知識、保育者の在り方を身につけていくことを目標とします

内容	
1	乳児保育 オリエンテーション
2	乳児保育の保育ニーズ
3	乳児保育の考え方
4	乳児保育の意識（現代の社会環境と乳児保育の必要性）
5	乳児の発達と保育 0歳児の発達と保育の配慮
6	乳児の発達と保育 1歳児の発達と保育の配慮
7	乳児の発達と保育 2歳児の発達と保育の配慮
8	乳児期の生活リズム（睡眠・摂食・排泄・活動）とデイリープログラムにおける配慮
9	乳児期の生活リズム（睡眠・摂食・排泄・活動）とデイリープログラムにおける配慮
10	乳児保育の環境 人的環境
11	乳児保育の環境 物的環境
12	乳児期の安全管理（事故・健康管理）
13	育ちが気になる事例
14	総合学習
15	まとめ

評価

項目ごとの小レポート及び試験によって行う。授業の参加態度及びレポート（30%）テスト（70%）で評価を行い、合格点に満たないものは、再試験となる。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習内容の復讐をしておくこと

【事後学修】学習内容の確認をしておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】民秋 言「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立」萌文書林
もう1冊は、初回授業で紹介する

【参考図書】 保育所保育指針解説書

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング	KAb214		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格に必要とされる専門科目です。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めます。

科目の概要

この科目は3歳未満児を保育の対象とする科目です。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響します。乳児保育は最も重要な時期を対象とすることです。乳児保育は保育所保育指針解説書において「生命の保持」「情緒の絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となりました。授業ではこの点を学び、乳児保育に必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもに関わることができるような授業内容です。

学修目標（=到達目標）

子どものさまざまな生育環境を踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方やとらえ方、知識、保育者の在り方を身につけていくことを目標とします

内容	
1	乳児保育 オリエンテーション
2	乳児保育の保育ニーズ
3	乳児保育の考え方
4	乳児保育の意識（現代の社会環境と乳児保育の必要性）
5	乳児の発達と保育 0歳児の発達と保育の配慮
6	乳児の発達と保育 1歳児の発達と保育の配慮
7	乳児の発達と保育 2歳児の発達と保育の配慮
8	乳児期の生活リズム（睡眠・摂食・排泄・活動）とデイリープログラムにおける配慮
9	乳児期の生活リズム（睡眠・摂食・排泄・活動）とデイリープログラムにおける配慮
10	乳児保育の環境 人的環境
11	乳児保育の環境 物的環境
12	乳児期の安全管理（事故・健康管理）
13	育ちが気になる事例
14	総合学習
15	まとめ

評価

項目ごとの小レポート及び試験によって行う。授業の参加態度及びレポート（30%）テスト（70%）で評価を行い、合格点に満たないものは、再試験となる。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】 学習内容の復習

【事後学修】 学習内容の確認

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】民秋 言「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立」萌文書林
もう1冊は、初回授業で紹介する。

【参考図書】保育所保育指針解説書

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学びます。幼稚園教諭免許や保育士資格の取得を目指す学生には単位の修得が義務づけられています。

科目の概要

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していきます。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきます。また、新幼稚園教育要領・新保育所保育指針において食育についての内容が明記された事にもとない、食をめぐるの保育内容・方法についても実践的に考えていきます。

学修目標

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容

1	領域「健康」とは何か	遊びを中心とした保育と領域「健康」
2	領域「健康」	ねらいと内容
3	領域「健康」	内容の取り扱い
4	子どもの生活リズム・生活習慣	
5	食生活と健康	子どもをめぐる食の現状と課題
6	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）
7	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の確認（グループワーク）
8	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の修正・発表準備（グループワーク）
9	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の発表（グループワーク）
10	0～2歳児頃までの発達の特徴	乳児期における神経系の発達と運動機能の発達
11	0～2歳児頃までの発達の特徴	身体機能の発達とコミュニケーション
12	3～5歳児までの発達の特徴	
13	身体機能及び運動能力の発達の特徴	
14	安全への配慮	
15	授業のまとめ	

評価

評価は、授業への取り組み（20点）、授業での課題（指導計画の立案・修正・発表 30点）及び期末試験（50点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容と対応している教科書の部分を読んでおく。

【事後学修】授業内容を振り返り、まとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】河邊貴子編，保育内容 健康，建帛社。

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学びます。幼稚園教諭免許や保育士資格の取得を目指す学生には単位の修得が義務づけられています。

科目の概要

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していきます。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきます。また、新幼稚園教育要領・新保育所保育指針において食育についての内容が明記された事にもとない、食をめぐるの保育内容・方法についても実践的に考えていきます。

学修目標

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容	
1	領域「健康」とは何か 遊びを中心とした保育と領域「健康」
2	領域「健康」 ねらいと内容
3	領域「健康」 内容の取り扱い
4	子どもの生活リズム・生活習慣
5	食生活と健康 子どもをめぐる食の現状と課題
6	食生活と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）
7	食生活と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の確認（グループワーク）
8	食生活と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の修正・発表準備（グループワーク）
9	食生活と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の発表（グループワーク）
10	0～2歳児頃までの発達の特徴 乳児期における神経系の発達と運動機能の発達
11	0～2歳児頃までの発達の特徴 身体機能の発達とコミュニケーション
12	3～5歳児までの発達の特徴
13	身体機能及び運動能力の発達の特徴
14	安全への配慮
15	授業のまとめ

評価

評価は、授業への取り組み（20点）、授業での課題（指導計画の立案・修正・発表 30点）及び期末試験（50点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容と対応している教科書の部分を読んでおく。

【事後学修】授業内容を振り返り、まとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】河邊貴子編，保育内容 健康，建帛社。

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 絃子		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していく。

保育内容として最初に学ぶ領域であり、保育者として乳幼児の生活や遊びを理解していく基盤となる知識や態度を獲得していく意識をもって学修すること。

保育内容の領域「健康」のねらいを理解し、それぞれの内容についての基本的知識を身につけることを通し、「健康」の視点から子ども理解を深め、保育者の役割を考える力を身につけることが目標である。

内容			
1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る	
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷	小テスト
3	心の安定と園生活	入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは	
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携	
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き	
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び	小テスト
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助	
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達	
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性	小テスト
10	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育	
11	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）	
12	食生活と健康	指導計画の発表	
13	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること	
14	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とその対応 / リスクとハザード	
15	まとめ	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識	期末レポート

評価

平常点 20点 小テスト 40点 期末レポート 40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説書の関連ページをその都度指示するので、読んでから授業に臨むこと。

【事後学修】配布するプリントを復習すると同時に、授業内容に関する新聞記事やニュースなどから、日常的に授業内容を自ら深める努力をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館

（他に毎回プリント資料を配布します）

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 絃子		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していく。

保育内容として最初に学ぶ領域であり、保育者として乳幼児の生活や遊びを理解していく基盤となる知識や態度を獲得していく意識をもって学修すること。

保育内容の領域「健康」のねらいを理解し、それぞれの内容についての基本的知識を身につけることを通し、「健康」の視点から子ども理解を深め、保育者の役割を考える力を身につけることが目標である。

内容			
1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る	
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷	小テスト
3	心の安定と園生活	入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは	
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携	
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き	
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び	小テスト
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助	
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達	
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性	小テスト
10	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育	
11	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）	
12	食生活と健康	指導計画の発表	
13	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること	
14	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とその対応 / リスクとハザード	
15	まとめ	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識	期末レポート

評価

平常点 20点 小テスト 40点 期末レポート 40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説書の関連ページをその都度指示するので、読んでから授業に臨むこと。

【事後学修】配布するプリントを復習すると同時に、授業内容に関する新聞記事やニュースなどから、日常的に授業内容を自ら深める努力をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館

（他に毎回プリント資料を配布します）

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング	KAc221		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていきけるような環境構成を考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、基本を理解し、人・物・事象と子どもとの関係を学ぶ。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

第1回：概説：保育における「環境」とは

第2回：「環境」とその変遷

- 幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 -

第3回：人的環境としての保育者の役割

第4回：子どもの発達と環境：乳児期

第5回：子どもの発達と環境：幼児期

第6回：子どもと自然

第7回：子どもと自然

第8回：具体的事物との関わり

第9回：具体的事物との関わり

第10回：生活環境における文字、数量、情報

第11回：園の行事と子どもの経験

第12回：保育者の環境構成、保育計画と記録、省察

第13回：子どもを取り巻く現代社会と環境

第14回：世界の保育・幼児教育

第15回：総括

評価

授業時のコメントペーパーやグループワークなど授業への参加度（30%）、授業時の課題提出（20%）、期末レポート（50%）による評価を行い、総合評価50点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】今までに学習した授業内容を復習し、関連付けながら受講する。テキスト指定箇所を読んで授業に臨んでほしい。

【事後学修】授業で配布した資料や返却物からポイントをまとめたノート作りを各自で進めてほしい。それからテキスト指定箇所をしっかりと読んで復習をしてほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「環境」 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

【参考図書】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

【参考図書】 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

【参考図書】 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング	KAc221		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていきけるような環境構成を考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、基本を理解し、人・物・事象と子どもとの関係を学ぶ。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

第1回：概説：保育における「環境」とは

第2回：「環境」とその変遷

- 幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 -

第3回：人的環境としての保育者の役割

第4回：子どもの発達と環境：乳児期

第5回：子どもの発達と環境：幼児期

第6回：子どもと自然

第7回：子どもと自然

第8回：具体的事物との関わり

第9回：具体的事物との関わり

第10回：生活環境における文字、数量、情報

第11回：園の行事と子どもの経験

第12回：保育者の環境構成、保育計画と記録、省察

第13回：子どもを取り巻く現代社会と環境

第14回：世界の保育・幼児教育

第15回：総括

評価

授業時のコメントペーパーやグループワークなど授業への参加度（30%）、授業時の課題提出（20%）、期末レポート（50%）による評価を行い、総合評価50点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】今までに学習した授業内容を復習し、関連付けながら受講する。テキスト指定箇所を読んで授業に臨んでほしい。

【事後学修】授業で配布した資料や返却物からポイントをまとめたノート作りを各自で進めてほしい。それからテキスト指定箇所をしっかりと読んで復習をしてほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「環境」 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

【参考図書】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

【参考図書】 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

【参考図書】 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング	KAc221		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていきえるような環境構成を考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、基本を理解し、人・物・事象と子どもとの関係を学ぶ。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

第1回：概説：保育における「環境」とは

第2回：「環境」とその変遷

- 幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 -

第3回：人的環境としての保育者の役割

第4回：子どもの発達と環境：乳児期

第5回：子どもの発達と環境：幼児期

第6回：子どもと自然

第7回：子どもと自然

第8回：具体的事物との関わり

第9回：具体的事物との関わり

第10回：生活環境における文字、数量、情報

第11回：園の行事と子どもの経験

第12回：保育者の環境構成、保育計画と記録、省察

第13回：子どもを取り巻く現代社会と環境

第14回：世界の保育・幼児教育

第15回：総括

評価

授業時のコメントペーパーやグループワークなど授業への参加度（30%）、授業時の課題提出（20%）、期末レポート（50%）による評価を行い、総合評価50点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】今までに学習した授業内容を復習し、関連付けながら受講する。テキスト指定箇所を読んで授業に臨んでほしい。

【事後学修】授業で配布した資料や返却物からポイントをまとめたノート作りを各自で進めてほしい。それからテキスト指定箇所をしっかりと読んで復習をしてほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「環境」 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

【参考図書】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

【参考図書】 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

【参考図書】 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング	KAc221		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていきけるような環境構成を考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、基本を理解し、人・物・事象と子どもとの関係を学ぶ。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

第1回：概説：保育における「環境」とは

第2回：「環境」とその変遷

- 幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 -

第3回：人的環境としての保育者の役割

第4回：子どもの発達と環境：乳児期

第5回：子どもの発達と環境：幼児期

第6回：子どもと自然

第7回：子どもと自然

第8回：具体的事物との関わり

第9回：具体的事物との関わり

第10回：生活環境における文字、数量、情報

第11回：園の行事と子どもの経験

第12回：保育者の環境構成、保育計画と記録、省察

第13回：子どもを取り巻く現代社会と環境

第14回：世界の保育・幼児教育

第15回：総括

評価

授業時のコメントペーパーやグループワークなど授業への参加度（30%）、授業時の課題提出（20%）、期末レポート（50%）による評価を行い、総合評価50点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】今までに学習した授業内容を復習し、関連付けながら受講する。テキスト指定箇所を読んで授業に臨んでほしい。

【事後学修】授業で配布した資料や返却物からポイントをまとめたノート作りを各自で進めてほしい。それからテキスト指定箇所をしっかりと読んで復習をしてほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「環境」 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

【参考図書】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

【参考図書】 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

【参考図書】 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KAc225		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひとつの出会い-1
11. ひとつの出会い-2
12. ひとつの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
- 15.エピローグ・社会の事象と造形-3

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KAc225		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

1. プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひととの出会い-1
11. ひととの出会い-2
12. ひととの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
15. エピローグ・社会の事象と造形-3

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング	KAc225		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

1. プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひととの出会い-1
11. ひととの出会い-2
12. ひととの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
15. エピローグ・社会の事象と造形-3

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング	KAc225		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

1. プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひとつの出会い-1
11. ひとつの出会い-2
12. ひとつの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
15. エピローグ・社会の事象と造形-3

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、関心を持ち、性質や特徴を確かめる体験をすることで、未体験の自然事象とも、かかわりをもつことができるようになる。
2. さまざまな自然事象とのかかわり方を知り、それらの性質や特徴をより良く理解し、より好ましいかかわり方を考える体験をすることで、多くの自然事象とかかわりを深めることができるようになる。
3. 子どもと自然とのかかわりの実情について学んだうえで、1, 2. のような自分の体験を活かしつつ、自然とかかわる好ましい保育を立案・計画することで、子どもと自然とのかかわりを適切に援助する方法を具体的に考えることができるようになる。

内容	
1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物（30点）、レポート（70点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと（計15時間）。また、前時に指示された予習をしておくこと（計14時間）。

【事後学修】体験型の授業（2～5回）の後は、経験を今後に生かせるようにレポートにまとめること（計16時間）。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと（計15時間）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、関心を持ち、性質や特徴を確かめる体験をすることで、未体験の自然事象とも、かかわりをもつことができるようになる。
2. さまざまな自然事象とのかかわり方を知り、それらの性質や特徴をより良く理解し、より好ましいかかわり方を考える体験をすることで、多くの自然事象とかかわりを深めることができるようになる。
3. 子どもと自然とのかかわりの実情について学んだうえで、1, 2. のような自分の体験を活かしつつ、自然とかかわる好ましい保育を立案・計画することで、子どもと自然とのかかわりを適切に援助する方法を具体的に考えることができるようになる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物（30点）、レポート（70点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと（計15時間）。また、前時に指示された予習をしておくこと（計14時間）。

【事後学修】体験型の授業（2～5回）の後は、経験を今後に生かせるようにレポートにまとめること（計16時間）。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと（計15時間）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、関心を持ち、性質や特徴を確かめる体験をすることで、未体験の自然事象とも、かかわりをもつことができるようになる。
2. さまざまな自然事象とのかかわり方を知り、それらの性質や特徴をより良く理解し、より好ましいかかわり方を考える体験をすることで、多くの自然事象とかかわりを深めることができるようになる。
3. 子どもと自然とのかかわりの実情について学んだうえで、1, 2. のような自分の体験を活かしつつ、自然とかかわる好ましい保育を立案・計画することで、子どもと自然とのかかわりを適切に援助する方法を具体的に考えることができるようになる。

内容	
1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物 (30点)、レポート (70点) とし、総合評価 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと（計15時間）。また、前時に指示された予習をしておくこと（計14時間）。

【事後学修】体験型の授業（2～5回）の後は、経験を今後に生かせるようにレポートにまとめること（計16時間）。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと（計15時間）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、関心を持ち、性質や特徴を確かめる体験をすることで、未体験の自然事象とも、かかわりをもつことができるようになる。
2. さまざまな自然事象とのかかわり方を知り、それらの性質や特徴をより良く理解し、より好ましいかかわり方を考える体験をすることで、多くの自然事象とかかわりを深めることができるようになる。
3. 子どもと自然とのかかわりの実情について学んだうえで、1, 2. のような自分の体験を活かしつつ、自然とかかわる好ましい保育を立案・計画することで、子どもと自然とのかかわりを適切に援助する方法を具体的に考えることができるようになる。

内容	
1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物（30点）、レポート（70点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと（計15時間）。また、前時に指示された予習をしておくこと（計14時間）。

【事後学修】体験型の授業（2～5回）の後は、経験を今後に生かせるようにレポートにまとめること（計16時間）。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと（計15時間）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング	KAd128		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

1	保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学
2	保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観
3	生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達
4	生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達
5	生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達
6	生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達
7	子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境
8	子どもの発達理解（2）感情の発達と自我
9	子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達
10	子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習
11	子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性
12	人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得
13	人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用
14	生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助
15	まとめ

評価

授業への参加度（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

授業外学習

【事前予習】指定されたテキストの次回範囲をよく読んでおくこと。

【事後学修】授業内容についてしっかり復習し、理解しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】丹羽さかの(編著)・小田豊(監修)『保育の心理学I』 光生館

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

科目名	発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング	KAd128		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

1	保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学
2	保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観
3	生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達
4	生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達
5	生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達
6	生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達
7	子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境
8	子どもの発達理解（2）感情の発達と自我
9	子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達
10	子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習
11	子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性
12	人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得
13	人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用
14	生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助
15	まとめ

評価

授業への参加度（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

授業外学習

【事前予習】指定されたテキストの次回範囲をよく読んでおくこと。

【事後学修】授業内容についてしっかり復習し、理解しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】丹羽さかの(編著)・小田豊(監修)『保育の心理学I』 光生館

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAd129		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得及び保育士資格取得の必要要件である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーを書くことにより、「書く力」を習得する。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業までに、教科書の指定箇所を読み、それについてのレジユメを作り、授業時に持参する。

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジユメを修正・加筆する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAd129		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得及び保育士資格取得の必要要件である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーを書くことにより、「書く力」を習得する。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業までに、教科書の指定箇所を読み、それについてのレジユメを作り、授業時に持参する。

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジユメを修正・加筆する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAd129		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得及び保育士資格取得の必要要件である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジюмеを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーを書くことにより、「書く力」を習得する。

乳幼児期の子どもについての理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジюме・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業までに、教科書の指定箇所を読み、それについてのレジюмеを作り、授業時に持参する。

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジюмеを修正・加筆する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAd129		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得及び保育士資格取得の必要要件である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーを書くことにより、「書く力」を習得する。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業までに、教科書の指定箇所を読み、それについてのレジユメを作り、授業時に持参する。

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジユメを修正・加筆する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	青年心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAd231		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科における保育士資格取得の選択必修科目の一つである。保育士資格取得希望の2・3・4年生を対象とする。

科目の概要

この科目では、講義形式で思春期・青年期の発達の特徴や生じうる臨床的な課題について学ぶ。また、履修者同士が各回のテーマについて、授業中にグループワークを行いながら自己を振り返り、ディスカッションなどを行うことにより、青年期にある履修者自身について理解するとともに、他者の理解を深める。

学修目標

1. 思春期・青年期の発達の特徴と臨床的な課題を理解する
2. 他者との話し合いの中で、自分を客観的に捉える
3. 自分の考えていることを、他者が理解できるように伝える力を磨く

内容

1	オリエンテーション：思春期・青年期の意味
2	青年期の自我の発達
3	青年期の認知発達
4	青年期の身体発達と心の発達
5	青年期の家族関係
6	青年期の友人関係
7	青年期の恋愛関係
8	前半のまとめ
9	青年と学校
10	青年と文化
11	就職とキャリア設計
12	青年期の臨床的な課題 1
13	青年期の臨床的な課題 2
14	青年期と精神疾患
15	まとめ

評価

授業中のリアクションペーパー30点、ワークの課題30点、期末レポート40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布資料を読む。

【事後学修】ワークの内容についてまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】プリント・資料を配布する。

【推薦書】宮下一博監修 松島公望・橋本広信編「ようこそ！青年心理学」ナカニシヤ出版
大野久編著「エピソードでつかむ青年心理学」 ミネルヴァ書房

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe134		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を取得するにあたって必要となる科目であり、子どもや家庭をめぐる福祉の概要を学ぶものである。1年次履修「社会福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」、「社会的養護原理」、「社会的養護内容」、3年次履修「相談援助」とも関連性がある。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。子ども権利条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 子ども家庭福祉の変遷を知り、基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解する。
3. 子どもの権利について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

1	私たちの眼からみた子どもを囲む状況
2	子ども家庭福祉と権利擁護
3	子ども家庭福祉の対象
4	子ども家庭福祉の歴史の変遷
5	子ども家庭福祉の法体系と実施体制
6	児童福祉施設と専門職
7	保育・教育施設と幼保一体
8	保育・教育施設と幼保一体
9	子育て支援サービス
10	戦後日本の子育て環境をみつめる
11	戦後日本の子育て環境をみつめる
12	母子保健と児童の健全育成
13	社会的養護と児童虐待
14	障害のある子どもへの支援
15	まとめ

評価

授業への参加状況 (20点)、授業内の課題やリアクションペーパー (20点)、期末テスト (60点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

授業外学習

【事前予習】日常生活において子どもの生活を気にかけること。最新保育資料集に目を通すこと。

【事後学修】授業ノート等を読み返し、次回の授業に備えること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 児童家庭福祉論（ミネルヴァ書房） 最新保育資料集2016（ミネルヴァ書房）

[参考書] 保育所保育指針解説書（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe134		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を取得するにあたって必要となる科目であり、子どもや家庭をめぐる福祉の概要を学ぶものである。1年次履修「社会福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」、「社会的養護原理」、「社会的養護内容」、3年次履修「相談援助」とも関連性がある。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。子ども権利条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 子ども家庭福祉の変遷を知り、基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解する。
3. 子どもの権利について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

1	私たちの眼からみた子どもを囲む状況
2	子ども家庭福祉と権利擁護
3	子ども家庭福祉の対象
4	子ども家庭福祉の歴史の変遷
5	子ども家庭福祉の法体系と実施体制
6	児童福祉施設と専門職
7	保育・教育施設と幼保一体
8	保育・教育施設と幼保一体
9	子育て支援サービス
10	戦後日本の子育て環境をみつめる
11	戦後日本の子育て環境をみつめる
12	母子保健と児童の健全育成
13	社会的養護と児童虐待
14	障害のある子どもへの支援
15	まとめ

評価

授業への参加状況 (20点)、授業内の課題やリアクションペーパー (20点)、期末テスト (60点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

授業外学習

【事前予習】日常生活において子どもの生活を気にかけること。最新保育資料集に目を通すこと。

【事後学修】授業ノート等を読み返し、次回の授業に備えること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 児童家庭福祉論（ミネルヴァ書房） 最新保育資料集2016（ミネルヴァ書房）

[参考書] 保育所保育指針解説書（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe334		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は幼児教育学科の専門科目「生活福祉」に位置する選択科目である。子ども家庭福祉 をふまえて、現在の子ども家庭福祉問題に関わる援助の実際について、関わる機関、施設、領域、対象別にテーマを設けて検討する。特に、法改正の変遷や子どもをめぐる問題、子どもの権利の保護の実情等に即して、専門援助のあり方を考察できるようにすることを旨とする。

科目の概要 本講義では、子ども家庭福祉 をふまえて、現在の児童福祉問題に関わる援助の実際について、現代の子どもや家庭に関わる福祉課題の理解、理念の理解 (講義1.2.3.4)、子ども家庭福祉の法制度、関わる機関、支援、施設の理解 (講義5.6.7.8.9.10.11.12.13) をふまえ、今後の課題について考察ができる (講義14) ようになることを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における子どもや家庭の現状と福祉課題について理解する。 2. 子ども家庭福祉の法制度の基礎を理解する。 3. 子ども家庭福祉の援助体制や実際について理解する。 4. 子ども家庭福祉の動向と課題について理解する。

内容

- 1 現代社会と子ども・家庭の生活実態
- 2 子ども・家庭福祉の歴史的展開と現代的ニーズ1
- 3 子ども・家庭福祉の歴史的展開と現代的ニーズ2
- 4 子ども家庭福祉の理念 児童の権利
- 5 子ども家庭福祉に関わる法と実施体制
- 6 子ども家庭福祉と自立支援
- 7 児童虐待の理解
- 8 児童虐待、家庭内暴力への援助と防止
- 9 子ども家庭福祉サービスの実際 1
- 10 子ども家庭福祉サービスの実際 2
- 11 子ども家庭福祉サービスの実際 3
- 12 子ども家庭福祉サービスの実際 4
- 13 子ども家庭福祉サービスの実際 5 児童福祉専門職の専門性と倫理の課題
- 14 子ども家庭福祉サービスの新しい動き
- 15 まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート (20点)、試験 (50点)、授業態度 (リアクションペーパー提出含む) (30点)。60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】子ども家庭福祉、社会福祉の授業で習得した知識の振り帰りをしておくこと。授業に関わる内容について、指示があったテキスト箇所を読んでおくこと。ニュースなどに関心を向けること。

【事後学修】授業で扱った内容について、わかった点、疑問が残った点をテキストや配布資料によって整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 講義中に示す

推薦書、参考文献等 講義中に適宜示す

科目名	社会福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe135		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し (講義1.2) 社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の関連性について理解する (講義3.4)、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め (講義5.6.7.8.9.10.11.12)、課題の考察 (講義13.14) が可能になることを目的とする。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

内容	
1	オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義
2	現代社会における社会福祉 取り巻く環境と歴史的展開
3	社会福祉と人権 (1) 社会福祉の理念
4	社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護
5	社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系
6	社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関
7	社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等とサービスの理解
8	社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者
9	社会福祉の制度と実施体制 (5) 社会保障及び関連制度の概要
10	社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則
11	社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術
12	社会福祉における相談援助 (3) 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
13	社会福祉の動向と課題 (1) 少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進
14	社会福祉の動向と課題 (2) 教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
15	まとめ

評価

学習目標に関する課題レポート (20点)、試験 (50点)、授業態度 (リアクションペーパー提出含む) (30点)。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】子ども家庭福祉 で習得した知識を確認しておくこと。並びに、社会的ニュースに関心を持ち、高校までに学んだ歴史、政治、経済、現代社会などの知識を振り返っておくこと。

【事後学修】授業中に配布した資料や、提示したテキストから授業中に触れた内容を再度確認し、知識として整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】石田慎二・山縣文治編著「新・プリマーズ保育 福祉 社会福祉」ミネルヴァ書房

参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

科目名	社会福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe135		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し（講義1.2）社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の関連性について理解する（講義3.4）、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め（講義5.6.7.8.9.10.11.12）、課題の考察（講義13.14）が可能になることを目的とする。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

内容	
1	オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義
2	現代社会における社会福祉 取り巻く環境と歴史的展開
3	社会福祉と人権 (1) 社会福祉の理念
4	社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護
5	社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系
6	社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関
7	社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等とサービスの理解
8	社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者
9	社会福祉の制度と実施体制 (5) 社会保障及び関連制度の概要
10	社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則
11	社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術
12	社会福祉における相談援助 (3) 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
13	社会福祉の動向と課題 (1) 少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進
14	社会福祉の動向と課題 (2) 教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
15	まとめ

評価

学習目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】子ども家庭福祉 で習得した知識を確認しておくこと。並びに、社会的ニュースに関心を持ち、高校までに学んだ歴史、政治、経済、現代社会などの知識を振り返っておくこと。

【事後学修】授業中に配布した資料や、提示したテキストから授業中に触れた内容を再度確認し、知識として整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】石田慎二・山縣文治編著「新・プリマーズ保育 福祉 社会福祉」ミネルヴァ書房

参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

科目名	社会的養護		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe237		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている保育士資格必修科目である。1年生で学ぶ保育専門職として修得すべき科目を踏まえて、社会的養護の概念、意義と課題理解を目標とする。科目の関連は特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護内容」をはじめとした保育、社会的養護に関わる各福祉領域の制度やサービス理解とつながりが深い科目である。

科目の概要 本講義では、社会的養護の原理について理念と歴史的展開変遷（講義1.2,3,4）、児童の権利擁護と養護理論（講義5）、法と制度施策体制と施設機関の理解、自立支援、虐待対応と防止等（講義6.7.8.9.10.11.12.13）理解と今後の課題について考察ができる（講義14）ことを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。 **講義の目標** 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

内容

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と理念
- 2 社会的養護の歴史的展開、変遷 1
- 3 社会的養護の歴史的展開、変遷 2
- 4 社会的養護と子ども家庭福祉政策の展開
- 5 児童の権利擁護と社会的養護
- 6 社会的養護の制度、仕組みと実施体系
- 7 家庭的養護と施設養護
- 8 社会的養護の専門職・実施者
- 9 施設養護の実際
- 10 施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 -
- 11 施設養護とソーシャルワーク
- 12 社会的養護の現状と課題
- 13 施設等の運営管理と地域とのかかわり
- 14 被措置児童等の虐待防止と社会的養護
- 15 総括

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】「子ども家庭福祉」、「社会福祉」で学習したことを確認した上で、次の授業内容として提示した内容、テキストや資料について確認をして授業に臨むこと

【事後学修】授業で触れたテキスト、資料の内容を見直し、わからない言葉等を調べておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 小池由佳・山縣文治他編著「社会的養護」ミネルヴァ書房

推薦書 講義中に適宜示す

科目名	社会的養護		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe237		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている保育士資格必修科目である。1年生で学ぶ保育専門職として修得すべき科目を踏まえて、社会的養護の概念、意義と課題理解を目標とする。科目の関連は特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護内容」をはじめとした保育、社会的養護に関わる各福祉領域の制度やサービス理解とつながりが深い科目である。

科目の概要 本講義では、社会的養護の原理について理念と歴史的展開変遷（講義1.2,3,4）、児童の権利擁護と養護理論（講義5）、法と制度施策体制と施設機関の理解、自立支援、虐待対応と防止等（講義6.7.8.9.10.11.12.13）理解と今後の課題について考察ができる（講義14）ことを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。 **講義の目標** 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

内容

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と理念
- 2 社会的養護の歴史的展開、変遷 1
- 3 社会的養護の歴史的展開、変遷 2
- 4 社会的養護と子ども家庭福祉政策の展開
- 5 児童の権利擁護と社会的養護
- 6 社会的養護の制度、仕組みと実施体系
- 7 家庭的養護と施設養護
- 8 社会的養護の専門職・実施者
- 9 施設養護の実際
- 10 施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 -
- 11 施設養護とソーシャルワーク
- 12 社会的養護の現状と課題
- 13 施設等の運営管理と地域とのかかわり
- 14 被措置児童等の虐待防止と社会的養護
- 15 総括

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】「子ども家庭福祉」、「社会福祉」で学習したことを確認した上で、次の授業内容として提示した内容、テキストや資料について確認をして授業に臨むこと

【事後学修】授業で触れたテキスト、資料の内容を見直し、わからない言葉等を調べておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 小池由佳・山縣文治他編著「社会的養護」ミネルヴァ書房

推薦書 講義中に適宜示す

科目名	社会的養護内容		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe238		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目である。

2年次前期開講の「社会的養護原理」で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会的養護原理」や3・4年次の施設実習とも関連性がある。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

学修目標

1. 社会的養護を通して、子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	子どもの権利擁護と倫理
3	保育者の基本的な養護援助・支援(1) 児童養護施設など
4	保育者の基本的な養護援助・支援(1) 児童養護施設など
5	保育者の基本的な養護援助・支援(1) 児童養護施設など
6	保育者の基本的な養護援助・支援(1) 児童養護施設など
7	保育者の基本的な養護援助・支援(1) 児童養護施設など
8	保育者の基本的な養護援助・支援(1) 児童養護施設など
9	保育者の基本的な養護援助・支援(1) 児童養護施設など
10	保育者の基本的な養護援助・支援(1) 児童養護施設など
11	自立支援計画書の作成・方法と社会的養護におけるソーシャルワーク
12	保育者の基本的な養護援助・支援(2) 障害児系施設
13	保育者の基本的な養護援助・支援(2) 障害児系施設
14	保育者の基本的な養護援助・支援(2) 障害児系施設
15	まとめ

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末レポート(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

授業外学習

【事前予習】授業内容に対応した部分について教科書を事前に読む

【事後学修】授業ノートを読み返し、次回の授業に備える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 社会的養護原理と同じものを使用する

科目名	社会的養護内容		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe238		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目である。

2年次前期開講の「社会的養護原理」で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会的養護原理」や3・4年次の施設実習とも関連性がある。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

学修目標

1. 社会的養護を通して、子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	子どもの権利擁護と倫理
3	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
4	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
5	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
6	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
7	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
8	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
9	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
10	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
11	自立支援計画書の作成・方法と社会的養護におけるソーシャルワーク
12	保育者の基本的な養護援助・支援 (2) 障害児系施設
13	保育者の基本的な養護援助・支援 (2) 障害児系施設
14	保育者の基本的な養護援助・支援 (2) 障害児系施設
15	まとめ

評価

授業への参加状況 (20点)、授業内の課題やリアクションペーパー (30点)、期末レポート (50点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

授業外学習

【事前予習】授業内容に対応した部分について教科書を事前に読む

【事後学修】授業ノートを読み返し、次回の授業に備える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 社会的養護原理と同じものを使用する

科目名	社会的養護内容		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe238		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目である。

2年次前期開講の「社会的養護原理」で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会的養護原理」や3・4年次の施設実習・とも関連性がある。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

学修目標

1. 社会的養護を通して、子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	子どもの権利擁護と倫理
3	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
4	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
5	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
6	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
7	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
8	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
9	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
10	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
11	自立支援計画書の作成・方法と社会的養護におけるソーシャルワーク
12	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
13	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
14	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

授業外学習

【事前予習】授業内容に対応した部分について教科書を事前に読む

【事後学修】授業ノートを読み返し、次回の授業に備える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 社会的養護原理と同じものを使用する

科目名	社会的養護内容		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe238		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目である。

2年次前期開講の「社会的養護原理」で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会的養護原理」や3・4年次の施設実習・とも関連性がある。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

学修目標

1. 社会的養護を通して、子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	子どもの権利擁護と倫理
3	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
4	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
5	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
6	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
7	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
8	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
9	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
10	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
11	自立支援計画書の作成・方法と社会的養護におけるソーシャルワーク
12	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
13	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
14	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）に

より評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

授業外学習

【事前予習】授業内容に対応した部分について教科書を事前に読む

【事後学修】授業ノートを読み返し、次回の授業に備える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 社会的養護原理と同じものを使用する

科目名	子育て支援論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAe239		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の対象の理解に関する科目」に関する科目の一つであり、「家庭の意義とその機能」「子育て家庭を取り巻く社会的状況」「子育て家庭の支援体制」「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携」について理解することが求められています。

科目の概要

昨今の子育て環境の変化を踏まえ、子育ての現状を知ることから始め、現代社会において求められている子育て支援とはどのようなものかについて考えを深めることを目指します。

学修目標 (= 到達目標)

地域にある子育て支援の取り組みについて主体的に調べ、理解をすることが求められます。最終的には受講者自身が出来る子育て支援とはどのようなものかについて考え、そこから「子どもを育てる」ことの意義、「子育てを支援することの意味」について考えを深めていくこととします。

内容	
1	子育てと家族・家庭 (1) オリエンテーション
2	子育てと家族・家庭 (2) 親になるとは
3	子育てと家族・家庭 (3) 家庭の機能・役割
4	子育てを取り巻く社会的状況 (1) 統計から読み取る
5	子育てを取り巻く社会的状況 (2) 子育てをすとは?
6	子育てを取り巻く社会的状況 (3) 子育ての実際
7	子育てを取り巻く社会的状況 (4) 必要な社会資源
8	子育て家庭支援の政策動向及び施策
9	多様な支援の展開と関係機関との連携 (1) 子育て支援機関の概要 実践例
10	多様な支援の展開と関係機関との連携 (2) 子育て支援機関の概要 実践例
11	多様な支援の展開と関係機関との連携 (3) 子育て支援機関の概要 実践例
12	特別なニーズを持つ家族・家庭の理解
13	特別なニーズを持つ家族・家庭の支援
14	他国の子育て家庭支援について
15	まとめ

評価

毎回の授業後のリアクションペーパーと課題(30点)、授業への参加意欲(20点)、および最終課題(50点)により総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

授業内で指定されたテキストの該当箇所を読み、まとめること。

【事後学修】

授業内で記入した自分のノートにテキストを振り返りながら加筆し、自分の考えをまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業内で指定する

【推薦書】 松本園子他著 実践「家庭支援論」ななみ書房

小野澤昇他編著「家庭支援論」ミネルヴァ書房

大豆生田啓友他編「よくわかる子育て支援・家族援助論」ミネルヴァ書房

【参考図書】 橋本真紀他編「よくわかる家族援助論」ミネルヴァ書房

汐見稔幸編「世界に学ぼう!子育て支援」フレーベル館

科目名	子育て支援論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAe239		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の対象の理解に関する科目」に関する科目の一つであり、「家庭の意義とその機能」「子育て家庭を取り巻く社会的状況」「子育て家庭の支援体制」「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携」について理解することが求められています。

科目の概要

昨今の子育て環境の変化を踏まえ、子育ての現状を知ることから始め、現代社会において求められている子育て支援とはどのようなものかについて考えを深めることを目指します。

学修目標 (= 到達目標)

地域にある子育て支援の取り組みについて主体的に調べ、理解をすることが求められます。最終的には受講者自身が出来る子育て支援とはどのようなものかについて考え、そこから「子どもを育てる」ことの意義、「子育てを支援することの意味」について考えを深めていくこととします。

内容	
1	子育てと家族・家庭 (1) オリエンテーション
2	子育てと家族・家庭 (2) 親になるとは
3	子育てと家族・家庭 (3) 家庭の機能・役割
4	子育てを取り巻く社会的状況 (1) 統計から読み取る
5	子育てを取り巻く社会的状況 (2) 子育てをすとは?
6	子育てを取り巻く社会的状況 (3) 子育ての実際
7	子育てを取り巻く社会的状況 (4) 必要な社会資源
8	子育て家庭支援の政策動向及び施策
9	多様な支援の展開と関係機関との連携 (1) 子育て支援機関の概要 実践例
10	多様な支援の展開と関係機関との連携 (2) 子育て支援機関の概要 実践例
11	多様な支援の展開と関係機関との連携 (3) 子育て支援機関の概要 実践例
12	特別なニーズを持つ家族・家庭の理解
13	特別なニーズを持つ家族・家庭の支援
14	他国の子育て家庭支援について
15	まとめ

評価

毎回の授業後のリアクションペーパーと課題(30点)、授業への参加意欲(20点)、および最終課題(50点)により総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

授業内で指定されたテキストの該当箇所を読み、まとめること。

【事後学修】

授業内で記入した自分のノートにテキストを振り返りながら加筆し、自分の考えをまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業内で指定する

【推薦書】 松本園子他著 実践「家庭支援論」ななみ書房

小野澤昇他編著「家庭支援論」ミネルヴァ書房

大豆生田啓友他編「よくわかる子育て支援・家族援助論」ミネルヴァ書房

【参考図書】 橋本真紀他編「よくわかる家族援助論」ミネルヴァ書房

汐見稔幸編「世界に学ぼう!子育て支援」フレーベル館

科目名	地域福祉論		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング	KAe240		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：選択科目（保育士選択科目）

科目の概要：現代社会における福祉を理解するため、地域福祉の基本的考え方、またその背景を学ぶ。各地で展開されている住民の主体的な活動事例（ボランティア・NPO・コミュニティビジネス等）をとりあげ、多様な人々の多様な生活が展開する地域という総合的な空間の理解を深める。特に東日本大震災後、新たな「絆」を模索する取組を展開している東北に注目する。

学修目標：地域を生活の場、問題解決の場として理解することにより、地域福祉の具体的な理解を深める。また、自らの居住地域を見る視点を得る。

内容

事例検討のテーマは、履修者の関心に応じて変わる可能性がある。シラバスでは例を示した。

1	現代社会におけるコミュニティと福祉
2	地域福祉の理念とその展開
3	地域福祉の理論の発展
4	地域福祉の主体と多様な地域団体
5	生活問題の発生とその把握 - 東日本大震災の復興過程から
6	住民参加と専門職の役割
7	事例検討 - 災害ボランティアをめぐる
8	事例検討 - 介護のネットワーク
9	事例検討 - 働く場を求めて
10	事例検討 - つながる関係を広げて
11	事例検討 - 安心して暮らす住まい
12	ソーシャルキャピタルの可能性
13	課題報告 - 自分の住む地域を考える
14	課題報告 - 自分の住む地域を考える
15	課題講評と講義のまとめ

評価

事例レポート（2割）、報告・発表（2割）、期末レポート（6割）

授業外学習

【事前予習】講義の理解のために、推薦書を受講前に読むことが効果的である。また、事例検討のための情報収集や自らの生活や地域を見直してもらうためのワークシートなどの課題に取り組む。

【事後学修】講義内容と自分の発表だけでなく、他の履修者の発表内容も含めて復習を行う。また、事例検討のテーマに応じた参考文献等は授業中に紹介するので、各自で学修を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：渋川智明『福祉NPO - 地域を支える市民起業』岩波新書 2001 369/S

広井良典『持続可能な福祉社会 - 「もう一つの日本」の構想』ちくま新書 2006 364/H

岩下清子・佐藤義夫・島田千穂『「小規模多機能」の意味論』雲母書房 2006 369.26/ I

岩田正美『社会的排除 - 参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣 2008

東日本大震災あの時、岩沼では…。編集委員会『東日本大震災あの時、岩沼では…。 - 50人の証言 - 』

国井印刷 2012

科目名	児童保健学		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf142		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

小児保健・母子保健の意義、統計をはじめ、母子保健行政の役割、子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。また、日常の保育の中で、子どもの健康に関する支援について理解し、健康課題に対応できるよう学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 小児保健の意義が説明できる。
2. 小児保健・母子保健に関する統計が説明できる。
3. 子どもの発育・発達の特徴が説明できる。
4. 子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。
5. 保育所での安全管理のあり方について説明できる。

内容

- 1 乳児・幼児の発達と反射
- 2 母子健康手帳の変遷と役割
- 3 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 4 小児保健とは 母子保健統計
- 5 母子保健行政の流れ
- 6 乳児・幼児健診 就学時検診
- 7 乳児・幼児の栄養と消化吸収
- 8 子どもの睡眠
- 9 子どもの生活リズム
- 10 子どもの気になる行動
- 11 子どもの環境整備 メディアリテラシー
- 12 衛生と環境
- 13 事故と安全
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学修】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

科目名	児童保健学		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf142		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

小児保健・母子保健の意義、統計をはじめ、母子保健行政の役割、子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。また、日常の保育の中で、子どもの健康に関する支援について理解し、健康課題に対応できるよう学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標（＝到達目標）

- 1．小児保健の意義が説明できる。
- 2．小児保健・母子保健に関する統計が説明できる。
- 3．子どもの発育・発達の特徴が説明できる。
- 4．子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。
- 5．保育所での安全管理のあり方について説明できる。

内容

- 1 乳児・幼児の発達と反射
- 2 母子健康手帳の変遷と役割
- 3 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 4 小児保健とは 母子保健統計
- 5 母子保健行政の流れ
- 6 乳児・幼児健診 就学時検診
- 7 乳児・幼児の栄養と消化吸収
- 8 子どもの睡眠
- 9 子どもの生活リズム
- 10 子どもの気になる行動
- 11 子どもの環境整備 メディアリテラシー
- 12 衛生と環境
- 13 事故と安全
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学修】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

科目名	児童保健学		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf242		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

児童保健学 での学びを基礎に、子どもがかかりやすい病気や予防について学ぶとともに、保育中に体調不良になった子どもへの対応ができるように学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 子どもの疾病とその予防について説明できる。
2. 保育中に子どもが体調不良になった時の対応を説明できる。
3. 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について説明できる。
4. 保育所と家族や地域との連携のあり方が説明できる。

内容

- 1 子どもの視力・目の異常
- 2 事故防止 乳幼児突然死症候群
- 3 皮膚の病気 アトピー性皮膚炎
- 4 ウイルス性感染症 1
- 5 歯科保健
- 6 ウイルス性感染症2
- 7 予防接種
- 8 耳鼻科疾患
- 9 受動喫煙による子どもへの影響
- 10 気管支ぜんそく・呼吸器
- 11 病気の予防と適切な対応
- 12 児童虐待とその対応
- 13 地域と家族
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学修】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

科目名	児童保健学		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf242		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

児童保健学 での学びを基礎に、子どもがかかりやすい病気や予防について学ぶとともに、保育中に体調不良になった子どもへの対応ができるように学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 子どもの疾病とその予防について説明できる。
2. 保育中に子どもが体調不良になった時の対応を説明できる。
3. 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について説明できる。
4. 保育所と家族や地域との連携のあり方が説明できる。

内容

- 1 子どもの視力・目の異常
- 2 事故防止 乳幼児突然死症候群
- 3 皮膚の病気 アトピー性皮膚炎
- 4 ウイルス性感染症 1
- 5 歯科保健
- 6 ウイルス性感染症2
- 7 予防接種
- 8 耳鼻科疾患
- 9 受動喫煙による子どもへの影響
- 10 気管支ぜんそく・呼吸器
- 11 病気の予防と適切な対応
- 12 児童虐待とその対応
- 13 地域と家族
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学修】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf243		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

内容

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法
- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み40%と試験60%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学習】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf243		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

内容

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法
- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み40%と試験60%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学習】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf243		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

内容

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法
- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み40%と試験60%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学習】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf243		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

内容

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法
- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み40%と試験60%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学修】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

科目名	食と発達		
担当教員名	中村 禎子		
ナンバリング	KAf244		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つであり、保育士資格を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

保育者として、子どもの食生活を支援する力を身につけるため、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に応じた適切な栄養や食生活とは何かを学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学習する。以上の子どもの望ましい食生活を理解した上で、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように、演習として食育の媒体作成、発表を行う。

学修目標（=到達目標）

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身につける。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 食育の基本と内容を理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

内容	
1	ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発育・発達と食生活
3	栄養に関する基本的な知識（栄養の基本概念と栄養素の種類と機能）
4	栄養に関する基本的な知識（食事摂取基準と献立作成・調理の基本）
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
6	乳児期の食生活（乳汁栄養）
7	乳児期の食生活（子どもの発育・発達の関係と離乳の実際）
8	幼児期の心身の発達と食生活
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
11	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
12	食育の基本と内容
13	食育のための媒体作成
14	食育の発表会
15	まとめ

評価

授業内レポート40点，定期試験レポート50点，授業態度10点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書をよく読み，わからない用語や疑問をまとめておく。

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【参考図書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院
亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

科目名	食と発達		
担当教員名	中村 禎子		
ナンバリング	KAf244		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つであり、保育士資格を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

保育者として、子どもの食生活を支援する力を身につけるため、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に応じた適切な栄養や食生活とは何かを学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学習する。以上の子どもの望ましい食生活を理解した上で、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように、演習として食育の媒体作成、発表を行う。

学修目標 (= 到達目標)

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身につける。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 食育の基本と内容を理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

内容

1	ガイダンス, 子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発育・発達と食生活
3	栄養に関する基本的な知識(栄養の基本概念と栄養素の種類と機能)
4	栄養に関する基本的な知識(食事摂取基準と献立作成・調理の基本)
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
6	乳児期の食生活(乳汁栄養)
7	乳児期の食生活(子どもの発育・発達の関係と離乳の実際)
8	幼児期の心身の発達と食生活
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
11	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
12	食育の基本と内容
13	食育のための媒体作成
14	食育の発表会
15	まとめ

評価

授業内レポート40点，定期試験レポート50点，授業態度10点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書をよく読み，わからない用語や疑問をまとめておく。

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【参考図書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院
亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

科目名	食と発達		
担当教員名	山崎 優子		
ナンバリング	KAf244		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つであり、保育士資格を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

保育者として、子どもの食生活を支援する力を身につけるため、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に応じた適切な栄養や食生活とは何かを学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学習する。以上の子どもの望ましい食生活を理解した上で、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように、演習として食育の媒体作成、発表を行う。

学修目標 (=到達目標)

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身につける。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 食育の基本と内容を理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

内容

1	ガイダンス, 子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発育・発達と食生活
3	栄養に関する基本的な知識(栄養の基本概念と栄養素の種類と機能)
4	栄養に関する基本的な知識(食事摂取基準と献立作成・調理の基本)
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
6	乳児期の食生活(乳汁栄養)
7	乳児期の食生活(子どもの発育・発達の関係と離乳の実際)
8	幼児期の心身の発達と食生活
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
11	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
12	食育の基本と内容
13	食育のための媒体作成
14	食育の発表会
15	食育の発表会・まとめ

評価

授業内レポート40点，定期試験レポート50点，授業態度10点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書をよく読み，わからない用語や疑問をまとめておく。

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【推薦書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院

【参考図書】亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

科目名	食と発達		
担当教員名	山崎 優子		
ナンバリング	KAf244		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士養成課程教育カリキュラムにおける”保育の対象の理解に関する科目”の一つであり、保育士資格を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

保育者として、子どもの食生活を支援する力を身につけるため、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に応じた適切な栄養や食生活とは何かを学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学習する。以上の子どもの望ましい食生活を理解した上で、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように、演習として食育の媒体作成、発表を行う。

学修目標 (=到達目標)

- 1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身につける。
- 2.子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
- 3.食育の基本と内容を理解する。
- 4.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
- 5.特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

内容	
1	ガイダンス, 子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発育・発達と食生活
3	栄養に関する基本的な知識(栄養の基本概念と栄養素の種類と機能)
4	栄養に関する基本的な知識(食事摂取基準と献立作成・調理の基本)
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
6	乳児期の食生活(乳汁栄養)
7	乳児期の食生活(子どもの発育・発達の関係と離乳の実際)
8	幼児期の心身の発達と食生活
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
11	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
12	食育の基本と内容
13	食育のための媒体作成
14	食育の発表会
15	食育の発表会・まとめ

評価

授業内レポート40点，定期試験レポート50点，授業態度10点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書をよく読み，わからない用語や疑問をまとめておく。

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【推薦書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院

【参考図書】亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAf245		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論演習へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容	
1	オリエンテーション 授業の目的
2	バンブーダンス
3	平均台を使った運動遊び
4	ボールを使った運動遊び（蹴って遊ぶ）
5	ボールを使った運動遊び（投げて遊ぶ）
6	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
7	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
8	マットを使った運動遊び
9	跳び箱を使った運動遊び
10	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
11	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
12	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

評価
 評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びにおける環境設定のまとめ 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

授業外学習
 【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

【推薦書】 杉原隆編，幼児期における運動発達と運動遊びの指導。

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAf245		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論演習へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容

1	オリエンテーション 授業の目的
2	バンブーダンス
3	平均台を使った運動遊び
4	ボールを使った運動遊び（蹴って遊ぶ）
5	ボールを使った運動遊び（投げて遊ぶ）
6	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
7	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
8	マットを使った運動遊び
9	跳び箱を使った運動遊び
10	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
11	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
12	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

評価

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びにおける環境設定のまとめ 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

【推薦書】 杉原隆編，幼児期における運動発達と運動遊びの指導。

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAf245		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論演習へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容	
1	オリエンテーション 授業の目的
2	バンブーダンス
3	平均台を使った運動遊び
4	ボールを使った運動遊び（蹴って遊ぶ）
5	ボールを使った運動遊び（投げて遊ぶ）
6	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
7	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
8	マットを使った運動遊び
9	跳び箱を使った運動遊び
10	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
11	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
12	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

評価

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びにおける環境設定のまとめ 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

【推薦書】 杉原隆編，幼児期における運動発達と運動遊びの指導。

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAf245		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論演習へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容

1	オリエンテーション 授業の目的
2	バンブーダンス
3	平均台を使った運動遊び
4	ボールを使った運動遊び（蹴って遊ぶ）
5	ボールを使った運動遊び（投げて遊ぶ）
6	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
7	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
8	マットを使った運動遊び
9	跳び箱を使った運動遊び
10	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
11	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
12	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

評価

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びにおける環境設定のまとめ 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

【推薦書】 杉原隆編，幼児期における運動発達と運動遊びの指導。

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg248		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる。
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる。
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現できるようにする。

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	身体を用いた歌唱表現とは
9	身体を用いた歌唱表現の創作と実践
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画、立案（グループ活動）
13	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作（グループ活動）
14	グループ単位での実践
15	まとめ（グループ単位での作品発表）

評価

音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 教科書内の歌を少しずつ読譜する。

【事後学修】 授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会 『日本の子どもの歌』 音楽之友社

【推薦書】

米山文明 『声がよくなる本』 主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦 『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』 音楽之友社、アン・カープ 『「声」の秘密』 草思社

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg248		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる。
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる。
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現できるようにする。

内容	
1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	身体を用いた歌唱表現とは
9	身体を用いた歌唱表現の創作と実践
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画、立案（グループ活動）
13	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作（グループ活動）
14	グループ単位での実践
15	まとめ（グループ単位での作品発表）

評価
音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 教科書内の歌を少しずつ読譜する。

【事後学修】 授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会 『日本の子どもの歌』 音楽之友社

【推薦書】

米山文明 『声がよくなる本』 主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦 『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』 音楽之友社、アン・カープ 『「声」の秘密』 草思社

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg248		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる。
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる。
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現できるようにする。

内容	
1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	身体を用いた歌唱表現とは
9	身体を用いた歌唱表現の創作と実践
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画、立案（グループ活動）
13	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作（グループ活動）
14	グループ単位での実践
15	まとめ（グループ単位での作品発表）

評価
音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 教科書内の歌を少しずつ読譜する。

【事後学修】 授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会 『日本の子どもの歌』 音楽之友社

【推薦書】

米山文明 『声がよくなる本』 主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦 『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』 音楽之友社、アン・カープ 『「声」の秘密』 草思社

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg248		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる。
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる。
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現できるようにする。

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	身体を用いた歌唱表現とは
9	身体を用いた歌唱表現の創作と実践
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画、立案（グループ活動）
13	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作（グループ活動）
14	グループ単位での実践
15	まとめ（グループ単位での作品発表）

評価

音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 教科書内の歌を少しずつ読譜する。

【事後学修】 授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会 『日本の子どもの歌』 音楽之友社

【推薦書】

米山文明 『声がよくなる本』 主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦 『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』 音楽之友社、アン・カープ 『「声」の秘密』 草思社

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	01
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	薮崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	02
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽表現」は幼稚園免許必修の単位科目であ

るので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	薮崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	03
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	04
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	清水 真理子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	05
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	06
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	07
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	08
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	薮崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	09
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	10
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	清水 真理子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	11
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	12
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」]「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	13
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	14
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	15
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	清水 真理子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	16
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	17
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	18
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	薮崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	20
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	21
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	22
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	23
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	24
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	25
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	26
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	27
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	薮崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	30
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	28
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	29
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	19
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	31
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	32
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	33
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6-8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	34
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	35
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。ピアノ経験者で「バイエル教則本」ではなく同レベルの他の教則本を終えた学生は、担当教員と相談をする。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「バイエル教則本」を終了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノレベルを少しでも高く保つための実技授業であるので、保育現場を目指しての大きな目標であるということの自覚をもって受講していただきたい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは90分で6 - 8人行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間で行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りに運べない場合も生じる。その場合は平均時間に多少の誤差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

「音楽基礎」の単位を取得し「音楽表現」の授業に進むことができる。「音楽基礎」「音楽表現」は幼稚園免許必修

の単位科目であるので注意すること。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

授業外学習

【事前予習】出された課題を必ず次の授業までにこなし、次の段階へ進めるよう個人の努力が大切である。担当教員とよく話し合い無理なく楽しく技術向上ができるようすすめていく。

【事後学修】これまでに演奏してきたピアノ曲を自分のものにして再演できるよう、適度に練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集などあらゆるピアノ教本から選抜する。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	01
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。

学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	薮崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	02
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	03
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	清水 真理子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	04
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	05
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	06
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布する場合が多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	07
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するケースが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	08
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	清水 真理子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	09
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	10
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。

学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するケースが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	11
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	12
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	13
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布するが多いと思われる。

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	薮崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	14
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器などに広げて、音楽をどのように自分のものにしていくかという課題に取り組む大変楽しい実技授業である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。

日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏スタイルを選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

これまでの必修科目としてのピアノ演奏から離れて、広く音楽経験から自分のための音楽の楽しみ方を模索し、音楽をする

というスタンスが得られることを期待する。

評価

実技のものであるが、競い合う授業ではない。音楽を楽しむということが基本精神であるが学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

授業取組の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

授業外学習

【事前予習】取り組む演奏を楽しく事前学習に結び付けて予習ができたの形が一番望ましい。

【事後学修】個人で演奏を楽しむことで事後学修とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほかエレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポップスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

楽譜に関しては担当の教員から配布する場合が多いと思われる。

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング	KAg151		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング	KAg151		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング	KAg151		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング	KAg151		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみることに。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KAg152		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力をつけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や造形を通して子どもたちが育つ環境について考え実践できる力を身につけてほしい。

内容	
1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	身近にある材料を使った表現：段ボール
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）により総合的に判断します。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KAg152		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力をつけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や造形を通して子どもたちが育つ環境について考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	身近にある材料を使った表現：段ボール
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）により総合的に判断します。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KAg152		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力をつけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や造形を通して子どもたちが育つ環境について考え実践できる力を身につけてほしい。

内容	
1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	身近にある材料を使った表現：段ボール
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価
 授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）により総合的に判断します。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習
【事前予習】 必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。
【事後学修】 教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）
 教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KAg152		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力をつけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や造形を通して子どもたちが育つ環境について考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）により総合的に判断します。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	鈴木 瑛貴、坪倉 紀代子、渡邊 孝枝		
ナンバリング	KAg253		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮すること。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解すること。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生すことができるか、考えを深めること。

内容	
1	ガイダンス（筆記用具持参）（渡邊・坪倉）
2	保育者にふさわしいからだづくり からだを動かしてあそぼう！（坪倉）
3	保育者にふさわしいからだづくり リズミカルに動く？（坪倉）
4	保育者にふさわしいからだづくり リズミカルに動く？（坪倉）
5	保育者にふさわしいからだづくり 大好きな歌から表現？（坪倉）
6	保育者にふさわしいからだづくり 大好きな歌から表現へ？（坪倉）
7	新聞紙であそぼう！（渡邊・坪倉）
8	自然のなかであそぼう！（渡邊・坪倉）
9	こころとからだをときほぐす（渡邊）
10	こころとからだをときほぐす（渡邊）
11	基本的な運動から身体表現へ（渡邊）
12	基本的な運動から身体表現へ（渡邊）
13	基本的な運動から身体表現へ（渡邊）
14	集団での身体表現活動（渡邊・坪倉）
15	実技試験とまとめ（渡邊・坪倉）

評価

積極的な授業への取り組みと授業記録・身体表現ノート50%、実技試験40%、レポート課題10%とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。合格点に満たない場合は、再試験を行います

。

授業外学習

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと

。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	鈴木 瑛貴、坪倉 紀代子、渡邊 孝枝		
ナンバリング	KAg253		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮すること。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解すること。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生すことができるか、考えを深めること。

内容

1	ガイダンス（筆記用具持参）（渡邊・坪倉）
2	保育者にふさわしいからだづくり からだを動かしてあそぼう！（渡邊）
3	保育者にふさわしいからだづくり リズミカルに動く？（渡邊）
4	保育者にふさわしいからだづくり リズミカルに動く？（渡邊）
5	保育者にふさわしいからだづくり 大好きな歌から表現？（渡邊）
6	保育者にふさわしいからだづくり 大好きな歌から表現へ？（渡邊）
7	新聞紙であそぼう！（渡邊・坪倉）
8	自然のなかであそぼう！（渡邊・坪倉）
9	こころとからだをときほぐす（坪倉）
10	こころとからだをときほぐす（坪倉）
11	基本的な運動から身体表現へ（坪倉）
12	基本的な運動から身体表現へ（坪倉）
13	基本的な運動から身体表現へ（坪倉）
14	集団での身体表現活動（渡邊・坪倉）
15	実技試験とまとめ（渡邊・坪倉）

評価

積極的な授業への取り組みと授業記録・身体表現ノート50%、実技試験40%、レポート課題10%とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。合格点に満たない場合は、再試験を行います

。

授業外学習

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと

。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	鈴木 瑛貴、坪倉 紀代子、渡邊 孝枝		
ナンバリング	KAg253		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮すること。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解すること。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生ずることができるか、考えを深めること。

内容

1	ガイダンス（筆記用具持参）（渡邊・坪倉）
2	保育者にふさわしいからだづくり からだを動かしてあそぼう！（坪倉）
3	保育者にふさわしいからだづくり リズミカルに動く？（坪倉）
4	保育者にふさわしいからだづくり リズミカルに動く？（坪倉）
5	保育者にふさわしいからだづくり 大好きな歌から表現？（坪倉）
6	保育者にふさわしいからだづくり 大好きな歌から表現へ？（坪倉）
7	新聞紙であそぼう！（渡邊・坪倉）
8	自然のなかであそぼう！（渡邊・坪倉）
9	こころとからだをときほぐす（渡邊）
10	こころとからだをときほぐす（渡邊）
11	基本的な運動から身体表現へ（渡邊）
12	基本的な運動から身体表現へ（渡邊）
13	基本的な運動から身体表現へ（渡邊）
14	集団での身体表現活動（渡邊・坪倉）
15	実技試験とまとめ（渡邊・坪倉）

評価

積極的な授業への取り組みと授業記録・身体表現ノート50%、実技試験40%、レポート課題10%とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。合格点に満たない場合は、再試験を行います

。

授業外学習

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと

。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	鈴木 瑛貴、坪倉 紀代子、渡邊 孝枝		
ナンバリング	KAg253		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮すること。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解すること。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生すことができるか、考えを深めること。

内容

1	ガイダンス（筆記用具持参）（渡邊・坪倉）
2	保育者にふさわしいからだづくり からだを動かしてあそぼう！（渡邊）
3	保育者にふさわしいからだづくり リズミカルに動く？（渡邊）
4	保育者にふさわしいからだづくり リズミカルに動く？（渡邊）
5	保育者にふさわしいからだづくり 大好きな歌から表現？（渡邊）
6	保育者にふさわしいからだづくり 大好きな歌から表現へ？（渡邊）
7	新聞紙であそぼう！（渡邊・坪倉）
8	自然のなかであそぼう！（渡邊・坪倉）
9	こころとからだをときほぐす（坪倉）
10	こころとからだをときほぐす（坪倉）
11	基本的な運動から身体表現へ（坪倉）
12	基本的な運動から身体表現へ（坪倉）
13	基本的な運動から身体表現へ（坪倉）
14	集団での身体表現活動（渡邊・坪倉）
15	実技試験とまとめ（渡邊・坪倉）

評価

積極的な授業への取り組みと授業記録・身体表現ノート50%、実技試験40%、レポート課題10%とし、総合評価60

点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。合格点に満たない場合は、再試験を行います

。

授業外学習

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと

。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

科目名	言語文化表現		
担当教員名	橋本 千鶴		
ナンバリング	KAg155		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの健全な心身の発達に深いかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本、紙芝居、素話、人形劇、言葉遊び、わらべうたなどの言語表現活動に焦点を当て、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法を実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

さまざまな児童文化財について積極的に学び、親しむことを通して、将来の保育者として必要な知識や技能を身につける。多様な言語表現活動を楽しみながら、豊かな言語感覚を養い、言葉に対する感性を磨く。子どもの発達段階に適した絵本、紙芝居、素話、人形劇などを選定することができる。

内容

1	オリエンテーション 素話と言葉遊び
2	児童文化と、保育の中の遊び
3	物語の解釈と、絵本の読み聞かせ(1)
4	絵本の読み聞かせ(2)
5	絵本の読み聞かせ(3)
6	絵本の読み聞かせ(4)
7	素話の発表
8	紙芝居の演じ方(1)
9	紙芝居の演じ方(2)
10	いろいろな児童文化財の紹介と実演(1)
11	いろいろな児童文化財の紹介と実演(2)
12	絵本作りの発表と合評会
13	わらべうた、手あそびうたの実演
14	声を届ける～群読
15	オノマトペを楽しむ まとめ

評価

授業への取り組み30%、提出物30%、試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書該当頁を読み、重要な箇所に線を引いておく。「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」を読み進める。授業内容を把握し、実演前にはよく練習してくる。

【事後学修】授業で学んだことを復習してノートにまとめる習慣をつけ、さらに児童文化財への興味関心を広げる。自分の実演をふり返り、改善点をはっきりさせて再度練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小川清実編「演習 児童文化－保育内容としての実践と展開」 萌文書林

【推薦書】「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」

【参考図書】皆川美恵子・武田京子編著「児童文化－子どものしあわせを考える学びの森」 ななみ書房

科目名	言語文化表現		
担当教員名	橋本 千鶴		
ナンバリング	KAg155		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの健全な心身の発達に深いかかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本、紙芝居、素話、人形劇、言葉遊び、わらべうたなどの言語表現活動に焦点を当て、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法を実践的に学ぶ。

学修目標（=到達目標）

さまざまな児童文化財について積極的に学び、親しむことを通して、将来の保育者として必要な知識や技能を身につける。多様な言語表現活動を楽しみながら、豊かな言語感覚を養い、言葉に対する感性を磨く。子どもの発達段階に適した絵本、紙芝居、素話、人形劇などを選定することができる。

内容

1	オリエンテーション 素話と言葉遊び
2	児童文化と、保育の中の遊び
3	物語の解釈と、絵本の読み聞かせ(1)
4	絵本の読み聞かせ(2)
5	絵本の読み聞かせ(3)
6	絵本の読み聞かせ(4)
7	素話の発表
8	紙芝居の演じ方(1)
9	紙芝居の演じ方(2)
10	いろいろな児童文化財の紹介と実演(1)
11	いろいろな児童文化財の紹介と実演(2)
12	絵本作りの発表と合評会
13	わらべうた、手あそびうたの実演
14	声を届ける～群読
15	オノマトペを楽しむ まとめ

評価

授業への取り組み30%、提出物30%、試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書該当頁を読み、重要な箇所に線を引いておく。「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」を読み進める。授業内容を把握し、実演前にはよく練習してくる。

【事後学修】授業で学んだことを復習してノートにまとめる習慣をつけ、さらに児童文化財への興味関心を広げる。自分の実演をふり返り、改善点をはっきりさせて再度練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小川清実編「演習 児童文化－保育内容としての実践と展開」 萌文書林

【推薦書】「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」

【参考図書】皆川美恵子・武田京子編著「児童文化－子どものしあわせを考える学びの森」 ななみ書房

科目名	言語文化表現		
担当教員名	吉岡 晶子		
ナンバリング	KAg155		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を習得する演目として位置づけられている。

科目の概要

子どもを取り巻く環境には様々な文化的要素がある。その中の言語文化的な分野、絵本、紙芝居、わらべうた、言葉遊び、人形劇などに焦点をあてて学ぶ。子どもの幸せを願いつつ児童文化とはなにかについて考えると共に、教材の選び方、生かし方、実際の保育の場でどのように展開されているか、また、環境構成のありかたについても実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

子どもの周りにある言語文化への興味関心を広め、教材研究する。また、実践することで幼児の発達を踏まえた保育技術を養う。子どもをとりまく文化や文化財をとおり、子どもについて、保育者について、保育のあり方について学ぶ。

内容	
1	オリエンテーション
2	幼稚園生活の中での遊び、遊具、行事などの児童文化に触れる
3	いろいろな絵本について
4	絵本・紙芝居の選び方
5	絵本・紙芝居の読み聞かせ体験
6	絵本・紙芝居の読み聞かせ体験
7	昔話・幼年童話
8	お話・お話作り
9	伝承遊びとわらべうた
10	人形劇
11	ペープサートについて
12	ペープサート体験
13	伝統的玩具、遊び
14	絵本つくりと合評・季節の行事と言葉
15	まとめ

評価

授業への取り組み 30% 提出物 30% 試験 40% とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領・保育所保育指針を読むこと 指定された教科書をよみ予習すること。

【事後学修】授業で学んだことについてノートをまとめ、さらに教材研究を深める。

児童文化への興味関心を広げ探究する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】演習 児童文化 小川清美編 萌文書林

【推薦書】幼稚園教育要領 保育所保育指針

科目名	言語文化表現		
担当教員名	吉岡 晶子		
ナンバリング	KAg155		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を習得する演目として位置づけられている。

科目の概要

子どもを取り巻く環境には様々な文化的要素がある。その中の言語文化的な分野、絵本、紙芝居、わらべうた、言葉遊び、人形劇などに焦点をあてて学ぶ。子どもの幸せを願いつつ児童文化とはなにかについて考えると共に、教材の選び方、生かし方、実際の保育の場でどのように展開されているか、また、環境構成のありかたについても実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

子どもの周りにある言語文化への興味関心を広め、教材研究する。また、実践することで幼児の発達を踏まえた保育技術を養う。子どもをとりまく文化や文化財をとおり、子どもについて、保育者について、保育のあり方について学ぶ。

内容	
1	オリエンテーション
2	幼稚園生活の中での遊び、遊具、行事などの児童文化に触れる
3	いろいろな絵本について
4	絵本・紙芝居の選び方
5	絵本・紙芝居の読み聞かせ体験
6	絵本・紙芝居の読み聞かせ体験
7	昔話・幼年童話
8	お話・お話作り
9	伝承遊びとわらべうた
10	人形劇
11	ペープサートについて
12	ペープサート体験
13	伝統的玩具、遊び
14	絵本つくりと合評・季節の行事と言葉
15	まとめ

評価

授業への取り組み 30% 提出物 30% 試験 40% とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領・保育所保育指針を読むこと 指定された教科書をよみ予習すること。

【事後学修】授業で学んだことについてノートをまとめ、さらに教材研究を深める。

児童文化への興味関心を広げ探究する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】演習 児童文化 小川清美編 萌文書林

【推薦書】幼稚園教育要領 保育所保育指針

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	宮野 周、平田 智久		
ナンバリング	KAg256		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1

第11回：自然の中に生きる その2

第12回：自然の中に生きる その3

第13回：自然の中に生きる その4

第14回：自然の中に生きる その5

第15回：エピローグ

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック（自作）にまとめ、自分のための資料集とすること(60点)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40点)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	宮野 周、平田 智久		
ナンバリング	KAg256		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1

第11回：自然の中に生きる その2

第12回：自然の中に生きる その3

第13回：自然の中に生きる その4

第14回：自然の中に生きる その5

第15回：エピローグ

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック（自作）にまとめ、自分のための資料集とすること(60点)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40点)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	宮野 周、平田 智久		
ナンバリング	KAg256		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1

第11回：自然の中に生きる その2

第12回：自然の中に生きる その3

第13回：自然の中に生きる その4

第14回：自然の中に生きる その5

第15回：エピローグ

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック（自作）にまとめ、自分のための資料集とすること(60点)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40点)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	宮野 周、平田 智久		
ナンバリング	KAg256		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1

第11回：自然の中に生きる その2

第12回：自然の中に生きる その3

第13回：自然の中に生きる その4

第14回：自然の中に生きる その5

第15回：エピローグ

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック（自作）にまとめ、自分のための資料集とすること(60点)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40点)。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング	KAg357		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育現場での音楽活動として、歌を歌う、手あそびをする、合奏をする、音楽表現をするなど、園生活で行う音楽活動は子どもにとってとても楽しく大切な活動である。子どもと行う「音楽あそび」や「合奏」にどのように取り組むべきかをこの授業では進めていく。

科目の概要

2つのテーマをもって取り組む。1つは「子どもの合奏」である。合奏するに当たり楽器の持つ音や演奏方法の基本を知り、子どもにとっての楽器演奏を考えてみる。あと1つは日本の子ども文化としての「手あそび」「お手玉」「まりつき」「おはじき」「羽根つき」などのあそび文化について再考していくことである。これらを中心に「子どもと音楽あそび」を考えていきたい。グループ活動を中心に活動する。

学修目標 (=到達目標)

楽しい合奏や、日本文化のあそびをクリエートして実技を中心に学生自身がまず楽しむことを到達目標とする。子どもと向き合うためにはまず自分が楽しい、という感性を育てることが大切なことと考えている。

内容

15回の授業のうち第1・2・3・4回と7回・8回・15回目のまとめは全員で授業を行うがあとはグループ活動でグループに分かれ、「お手玉」「合奏」をやっていく。

1	授業の説明・グループ分け
2	楽器演奏の基礎知識を学ぶ
3	簡易楽器の基礎知識を学ぶ
4	子どもにとっての合奏とは何かを考える
5	合奏曲を選曲し、合奏を試みる
6	合奏練習を発表する
7	日本のあそび文化に触れる
8	日本に伝わるお手玉あそびを試みる
9	お手玉あそびを深める
10	お手玉あそびをクリエーションする
11	あそびのバリエーションを考える
12	手あそび・表現をクリエイトしあそびを考える
13	手あそび・表現の発表をする
14	これまで行ってきたお手玉・合奏・手あそびについての記録をつける
15	まとめ

評価

実技活動が中心となるので、授業への参加度80%、毎回のノート作り10%、まとめのレポート10% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】他の授業などでも、子どもの表現や発達で気づいたことを音楽表現に結び付けて考えることを習慣づけていること

【事後学修】対自分自身の中で、子どもとの遊びにつなげていくような発展を考えていければよい

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しないが、授業に必要なプリント配布をする

【推薦書】合奏関係の本、てあそび関係の本を参考

【参考図書】大学の図書館にて見つける

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg357		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、保育者として必須である、幅広い音楽表現を学ぶ科目である。既存の音楽に限定せず、履修者自らが表現の幅を広げるために、感性を研ぎ澄まし、総合的な音楽表現の獲得をめざす。

科目の概要

基礎的な音楽に関する知識を学び、実際に歌い、様々な楽器に触れて、歌う、動く、楽器を演奏するなど、音楽表現の方法を学ぶ。また、身近にある「音」に対する感覚を磨き、身の周りにある音から音楽的表現の可能性を導いていく感性を磨く。さらに合唱する、合奏する等のグループ活動を通して、学びを共有する。

学修目標

1. 音楽表現の多様性を体得すること。
2. 表現したい事を他者に的確に伝えることができるようになること。
3. 人の心に伝わる歌唱とはどのようなものか、試行錯誤して試みる。

内容

1	ガイダンス
2	発声法と呼吸法について
3	子どもの歌の表現について
4	子どもの歌を日本語と英語で歌ってみよう
5	子ども向きのオペラ、オペレッタ、ミュージカル作品について
6	子ども向きのオペラ、オペレッタ、ミュージカル作品の鑑賞
7	楽器にふれてみよう
8	楽器を使って合奏してみよう
9	歌と楽器で合奏してみよう
10	身近にあるもので楽器を作ってみよう
11	作った楽器を使って表現してみよう
12	身近にある「音」を探してみよう
13	見つけた「音」を共有しよう
14	見つけた「音」を素材にして表現してみよう
15	まとめ

評価

グループ活動への取り組み (20%)、表現発表 (20%)、授業への参加度 (60%) とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指示した授業準備を必ずする。

【事後学修】 楽器などの演奏法をまとめ、練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業資料配布。

科目名	ミュージック・クリエイション		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング	KAg357		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育現場での音楽活動として、歌を歌う、手あそびをする、合奏をする、音楽表現をするなど、園生活で行う音楽活動は子どもにとってとても楽しく大切な活動である。子どもと行う「音楽あそび」や「合奏」にどのように取り組むべきかをこの授業では進めていく。

科目の概要

2つのテーマをもって取り組む。1つは「子どもの合奏」である。合奏するに当たり楽器の持つ音や演奏方法の基本を知り、子どもにとっての楽器演奏を考えてみる。あと1つは日本の子ども文化としての「手あそび」「お手玉」「まりつき」「おはじき」「羽根つき」などのあそび文化について再考していくことである。これらを中心に「子どもと音楽あそび」を考えていきたい。グループ活動を中心に活動する。

学修目標 (= 到達目標)

楽しい合奏や、日本文化のあそびをクリエートして実技を中心に学生自身がまず楽しむことを到達目標とする。子どもと向き合うためにはまず自分が楽しい、という感性を育てることが大切なことと考えている。

内容

15回の授業のうち第1・2・3・4回と7回・8回・15回目のまとめは全員で授業を行うがあとはグループ活動でグループに分かれ、「お手玉」「合奏」をやっていく。

1	授業の説明・グループ分け
2	楽器演奏の基礎知識を学ぶ
3	簡易楽器の基礎知識を学ぶ
4	子どもにとっての合奏とは何かを考える
5	合奏曲を選曲し、合奏を試みる
6	合奏練習を発表する
7	日本のあそび文化に触れる
8	日本に伝わるお手玉あそびを試みる
9	お手玉あそびを深める
10	お手玉あそびをクリエーションする
11	あそびのバリエーションを考える
12	手あそび・表現をクリエイトしあそびを考える
13	手あそび・表現の発表をする
14	これまで行ってきたお手玉・合奏・手あそびについての記録をつける
15	まとめ

評価

実技活動が中心となるので、授業への参加度80%、毎回のノート作り10%、まとめのレポート10% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】他の授業などでも、子どもの表現や発達で気づいたことを音楽表現に結び付けて考えることを習慣づけていること

【事後学修】対自分自身の中で、子どもとの遊びにつなげていくような発展を考えていければよい

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しないが、授業に必要なプリント配布をする

【推薦書】合奏関係の本、てあそび関係の本を参考

【参考図書】大学の図書館にて見つける

科目名	造形発達と表現		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング	KAg358		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳児から児童に至るまでの子どもの発達やその特性を理解し、その生育にいかに関わることが望ましいかについて学ぶことが主眼である。

その一つの視座として「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことは具体的な学びとなる。

科目の概要

人間が生きる手段として表現行動は重要である。その表現行動のひとつとして造形表現は欠くことができない行動である。その造形表現の行動は乳幼児・児童と大人と共通した行動もあれば、大きく異なる行動もある。そうした同一性と異文化性を持っていることを認識することは乳幼児・児童教育の立場だけでなく、ひろく人間の営みとして理解することになり重要である。

学修目標

そのために乳幼児の造形表現に潜む意味や特徴的な表現の意味を学び、幼児期から児童期の発達過程について学び、その表現をどう読み取るのか、どのような援助方法や対応があるのか...について体得していくことがねらいである。

内容

子どもたちの実態をスライドやビデオなどで知ることや、実際の幼児画を見るなど具体的な資料を基に、観察・鑑賞・検証・考察を繰り返して、直接体験的に認識を積み上げながら学ぶ。つまり、子どもたちの独特な表現法やその読み取り方を体得し、適切な援助の仕方を体得することである。そうした中で大人との共通性（同一性）もおのずと理解されることになる。

1～2 1. 表と現と 「乳幼児独特の造形表現法について」

3～5 2. 幼児画の発達段階

- ・描き始めのころ (Scribble期・1～2歳ころ)
- ・伝達の喜び (象徴期・3～4歳ころ)

6～10 3. 幼児・児童画の特徴 「子どもの絵の読み取り方」

- ・共感する意義とそのポイント

11～15 4. 気になる、心配になる絵への理解と対応

- ・ストロークのもつ意味
- ・色彩心理との関わり

授業中に示した子どもの絵をデジタルカメラで撮影し、分類し資料にする。

評価

講義と実習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲(40%)を評価する。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】データ整理をこまめに行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊